

0001 経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：基礎

論点：国内総生産（GDP）の説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これはGNIに近い発想であり、GDPは国内生産を基準とする。」

- ア：対応する記述：国内居住者が国内外で受け取った所得の合計
- イ：対応する記述：一定期間に国内で新たに生み出された付加価値の合計
- ウ：対応する記述：国内の家計が購入した最終消費財の金額だけの合計
- エ：対応する記述：国内企業の売上高を単純に合計した金額

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはGNIに近い発想であり、GDPは国内生産を基準とする。
イ：この記述の評価理由は「GDPは国籍ではなく国内という地理的範囲を基準に、生産活動で生み出された付加価値を集計する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「GDPには消費だけでなく投資、政府支出、純輸出等も含まれる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「売上高を単純合計すると中間取引を重複計上するため、GDPは付加価値で捉える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「国内居住者が国内外で受け取った所得の合計」という記述に対応する。これはGNIに近い発想であり、GDPは国内生産を基準とする。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0002 経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：支出面から見たGDPを、C = 民間最終消費支出、I = 総固定資本形成等の投資、G = 政府支出、X = 輸出、M = 輸入として表す式として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「国内で生産されたものへの支出を捉えるため、輸出を加え、国内支出に含まれる輸入を控除する。」

- ア：対応する記述：政府支出を控除し、輸入も控除する式： $C + I - G + X - M$
- イ：対応する記述：純輸出を「輸出 - 輸入」と置く式： $C + I + G + X - M$
- ウ：対応する記述：投資を控除し、輸入を加算する式： $C - I + G + X + M$
- エ：対応する記述：純輸出を「輸入 - 輸出」と置く式： $C + I + G - X + M$

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「政府支出はGDPの支出項目なので通常は加算される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。国内で生産されたものへの支出を捉えるため、輸出を加え、国内支出に含まれる輸入を控除する。
ウ：この記述の評価理由は「投資は加算され、輸入は控除される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「輸出と輸入の符号が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「純輸出を「輸出 - 輸入」と置く式： $C + I + G + X - M$ 」という記述に対応する。国内で生産されたものへの支出を捉えるため、輸出を加え、国内支出に含まれる輸入を控除する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0003

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：基礎

論点：GDPの三面等価に関する記述として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「支出面では輸入を控除し、国内生産に対応させる。」

ア：対応する記述：生産面GDPだけが市場価格を用いるため、他の二面より必ず大きい

イ：対応する記述：生産面・分配面・支出面から捉えたGDPは、概念上同じ経済活動を異なる側面から測るため一致する

ウ：対応する記述：支出面GDPは輸入を含めるため、生産面GDPより必ず大きい

エ：対応する記述：分配面GDPは家計所得だけを集計するため、生産面GDPより小さい

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「三面は概念上同じ総額を表す。実務上の統計には不突合があり得るが、理論上の大小関係ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「生産された付加価値は所得として分配され、その所得が最終的に支出されるため、概念上三面は一致する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。支出面では輸入を控除し、国内生産に対応させる。

エ：この記述の評価理由は「分配面は家計所得だけでなく、企業所得や税等を含む形で付加価値の分配を捉える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「支出面GDPは輸入を含めるため、生産面GDPより必ず大きい」という記述に対応する。支出面では輸入を控除し、国内生産に対応させる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0004

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：ある年に生産量が前年と同じまま、すべての財・サービスの価格だけが10%上昇したとする。他の条件を無視すると、名目GDPと実質GDPの動きとして最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「実質GDPは価格変動の影響を除くため、数量が不変なら基本的に増えない。」

ア：対応する記述：名目GDPは増加するが、実質GDPは基本的に変化しない

イ：対応する記述：名目GDPは変化せず、実質GDPだけ10%増加する

ウ：対応する記述：名目GDPも実質GDPも変化しない

エ：対応する記述：名目GDPも実質GDPも10%増加する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「名目値は当年価格の上昇を反映するが、実質値は物価変動を除いて数量の変化を捉えるためである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「名目GDPは当年価格で評価するので価格上昇の影響を受ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「名目GDPは価格が上がれば数量不変でも増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。実質GDPは価格変動の影響を除くため、数量が不変なら基本的に増えない。

総合解説：提示された評価理由は「名目GDPも実質GDPも10%増加する」という記述に対応する。実質GDPは価格変動の影響を除くため、数量が不変なら基本的に増えない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0005

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：名目GDPが550兆円、実質GDPが500兆円であるとき、GDPデフレーターを「名目GDP÷実質GDP×100」で求めるといくらか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「 $550 \div 500 \times 100 = 110$ である。」

- ア：対応する記述：110
イ：対応する記述：105
ウ：対応する記述：120
エ：対応する記述：90.9

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $550 \div 500 \times 100 = 110$ である。
イ：この記述の評価理由は「550と500の差50をそのまま指数化した値ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「与えられた名目GDPと実質GDPからは120にはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「実質GDP÷名目GDP×100と逆に計算した値に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「110」という記述に対応する。 $550 \div 500 \times 100 = 110$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0006

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：基礎

論点：農家が小麦を製粉会社へ100万円で販売し、製粉会社が小麦粉をパン会社へ160万円で販売し、パン会社が最終消費者へ250万円で販売した。中間投入以外を無視したとき、この一連の取引がGDPに加える付加価値の合計はいくらか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「 $100 + 160 + 250$ と売上を単純合計すると中間財を重複計上する。」

- ア：対応する記述：90万円
イ：対応する記述：510万円
ウ：対応する記述：250万円
エ：対応する記述：150万円

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「これはパン会社段階だけの付加価値であり、全段階の合計ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $100 + 160 + 250$ と売上を単純合計すると中間財を重複計上する。
ウ：この記述の評価理由は「各段階の付加価値は $100 + 60 + 90 = 250$ 万円であり、最終財の価値250万円とも一致する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「最終販売額から最初的小麦代だけを引くと中間段階の付加価値を正しく集計できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「510万円」という記述に対応する。 $100 + 160 + 250$ と売上を単純合計すると中間財を重複計上する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0007

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：企業が今年生産した製品100個のうち90個を販売し、10個を期末在庫として保有した。他の条件を無視した場合、GDPの支出面でこの10個はどのように扱われるか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「当期に生産されたが売れなかった財は在庫の増加として投資に計上され、生産面GDPと支出面GDPを対応させる。」

- ア：対応する記述：家計消費として計上される
- イ：対応する記述：売れていないのでGDPには含まれない
- ウ：対応する記述：在庫投資として投資に含まれる
- エ：対応する記述：輸出として計上される

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「企業保有在庫であり家計による最終消費ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「GDPは販売ではなく当期の国内生産を捉えるため、在庫増加として計上される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。当期に生産されたが売れなかった財は在庫の増加として投資に計上され、生産面GDPと支出面GDPを対応させる。
エ：この記述の評価理由は「海外へ販売されたわけではないので輸出ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「在庫投資として投資に含まれる」という記述に対応する。当期に生産されたが売れなかった財は在庫の増加として投資に計上され、生産面GDPと支出面GDPを対応させる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0008

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：応用

論点：GDPの推計に関する記述として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「既存金融資産の所有権移転そのものは新規生産ではない。」

- ア：対応する記述：中古住宅の売買価格は、その全額が当年の新規生産としてGDPに計上される
- イ：対応する記述：家事労働はすべて市場価格で評価されGDPに計上される
- ウ：対応する記述：持ち家の住宅サービスは、市場で家賃の支払いがなくても帰属家賃としてGDPに反映される
- エ：対応する記述：株式の売買代金は、その全額が金融サービスの生産としてGDPに計上される

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「中古資産そのものは過去の生産物であり、当年の新規生産には仲介サービス等が該当する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「無償の家事労働は通常GDPの生産境界の外にある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「持ち家と賃貸住宅の比較可能性を保つため、持ち家の住宅サービスには帰属家賃が推計される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。既存金融資産の所有権移転そのものは新規生産ではない。

総合解説：提示された評価理由は「株式の売買代金は、その全額が金融サービスの生産としてGDPに計上される」という記述に対応する。既存金融資産の所有権移転そのものは新規生産ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0009

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：基礎

論点：国内純生産（NDP）をGDPから求める関係として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「固定資本減耗を加えると純ではなく総概念からさらに大きくなる。」

- ア：対応する記述：GDPに固定資本減耗を加える関係：NDP = GDP + 固定資本減耗
- イ：対応する記述：GDPに海外からの所得純受取を加える関係：NDP = GDP + 海外からの所得純受取
- ウ：対応する記述：GDPから固定資本減耗を控除する関係：NDP = GDP - 固定資本減耗
- エ：対応する記述：GDPから輸入を控除する関係：NDP = GDP - 輸入

答え・解説

正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。固定資本減耗を加えると純ではなく総概念からさらに大きくなる。
- イ：この記述の評価理由は「これはGDPからGNIへつなぐ関係に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「純概念は総概念から固定資本減耗（減価償却に相当する消耗分）を差し引く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「輸入控除は支出面GDPの純輸出を求める際の処理であり、NDPの定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「GDPに固定資本減耗を加える関係：NDP = GDP + 固定資本減耗」という記述に対応する。固定資本減耗を加えると純ではなく総概念からさらに大きくなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0010

経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：名目GDPが600兆円、海外から受け取る第1次所得が30兆円、海外へ支払う第1次所得が20兆円である。他の調整を無視すると、GNIはいくらか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「GNI = GDP + 海外からの第1次所得の純受取なので、600 + 30 - 20 = 610兆円となる。」

- ア：対応する記述：590兆円
- イ：対応する記述：610兆円
- ウ：対応する記述：600兆円
- エ：対応する記述：650兆円

答え・解説

正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「受取と支払の差の符号を逆にしている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。GNI = GDP + 海外からの第1次所得の純受取なので、600 + 30 - 20 = 610兆円となる。
- ウ：この記述の評価理由は「海外からの第1次所得の純受取10兆円を反映していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「受取と支払を両方加算しており、純受取になっていない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「610兆円」という記述に対応する。GNI = GDP + 海外からの第1次所得の純受取なので、600 + 30 - 20 = 610兆円となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0011 経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：標準

論点：名目GDP成長率が5%、GDPデフレーター上昇率が約2%であった。成長率が小さいとして近似すると、実質GDP成長率はおおむねいくらか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「物価上昇率は名目成長率から控除して実質成長を考える。」

- ア：対応する記述：約10%
- イ：対応する記述：約3%
- ウ：対応する記述：約7%
- エ：対応する記述：約2.5%

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「名目5%と物価2%から実質10%にはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「名目成長率は概ね実質成長率+物価上昇率と考えられるため、5%-2%=約3%である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。物価上昇率は名目成長率から控除して実質成長を考える。
エ：この記述の評価理由は「名目成長率を物価上昇率で単純に割る考え方ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「約7%」という記述に対応する。物価上昇率は名目成長率から控除して実質成長を考える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0012 経済指標・国民経済計算 > 国民経済計算・GDP | 難易度：応用

論点：1人当たり実質GDPを生活水準の指標として利用する際の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「1人当たり実質GDPは重要な平均指標だが、厚生 の全側面を測るものではない。」

- ア：対応する記述：物価変動を含む名目指標なので、時系列比較には実質GDPより常に優れる
- イ：対応する記述：人口が増えるほど必ず1人当たりGDPも上昇する
- ウ：対応する記述：所得格差を完全に反映するため、同じ値の国では生活水準も必ず同一である
- エ：対応する記述：平均的な生産・所得水準の比較には有用だが、所得分配や無償労働、環境負荷などを直接示す指標ではない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「実質GDPは物価変動を除いて数量面を比較するため、時系列の実質成長には適する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「GDPの伸びが人口の伸びを下回れば1人当たりGDPは低下し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「平均値は分配の違いを捉えないため、同じ1人当たりGDPでも格差や公共サービス等は異なり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。1人当たり実質GDPは重要な平均指標だが、厚生 の全側面を測るものではない。
総合解説：提示された評価理由は「平均的な生産・所得水準の比較には有用だが、所得分配や無償労働、環境負荷などを直接示す指標ではない」という記述に対応する。1人当たり実質GDPは重要な平均指標だが、厚生 の全側面を測るものではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0013 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：基礎

論点：消費者物価指数（CPI）の目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「CPIは一般に消費財・サービスの物価を測り、資産価格指数ではない。」

- ア：対応する記述：株式や土地など資産価格の変動を総合して測る
- イ：対応する記述：家計が購入する財・サービスの価格を総合し、物価の時間的変動を測る
- ウ：対応する記述：国内で生産されたすべての最終財の価格だけを測る
- エ：対応する記述：企業間で取引される中間財だけの価格を測る

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。CPIは一般に消費財・サービスの物価を測り、資産価格指数ではない。
イ：この記述の評価理由は「CPIは家計の消費に関連する財・サービスの価格変動を総合的に測定する指数である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「これはGDPデフレーターに近い発想で、CPIの対象は家計消費である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「CPIは消費者が購入する財・サービスを対象とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「株式や土地など資産価格の変動を総合して測る」という記述に対応する。CPIは一般に消費財・サービスの物価を測り、資産価格指数ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0014 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：標準

論点：CPIとGDPデフレーターの違いに関する記述として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「対象の説明が逆である。」

- ア：対応する記述：CPIもGDPデフレーターも対象品目とウエイトが完全に同じである
- イ：対応する記述：CPIは企業設備投資を広く含むが、GDPデフレーターは家計消費だけを対象とする
- ウ：対応する記述：GDPデフレーターは輸入品だけの価格指数である
- エ：対応する記述：輸入消費財の価格上昇はCPIに反映され得るが、輸入品は国内生産ではないためGDPデフレーターには直接含まれない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「対象範囲やウエイトの考え方が異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。対象の説明が逆である。
ウ：この記述の評価理由は「GDPデフレーターは国内で生産された最終財・サービスの価格変化を反映する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「CPIは家計が購入する財・サービスを対象にするため輸入品を含み得る。一方GDPデフレーターは国内生産に対応する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「CPIは企業設備投資を広く含むが、GDPデフレーターは家計消費だけを対象とする」という記述に対応する。対象の説明が逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0015 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：基礎

論点：就業者が6,700万人、完全失業者が300万人、非労働力人口が3,000万人であるとき、完全失業率はいくらか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「労働力人口は $6,700 + 300 = 7,000$ 万人。 $300 \div 7,000 \times 100$ 4.3%である。」

- ア：対応する記述：3.0%
- イ：対応する記述：10.0%
- ウ：対応する記述：約4.3%
- エ：対応する記述：4.5%

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「15歳以上人口全体を分母にするのではなく、労働力人口を分母にする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「非労働力人口3000万人を分母に使う指標ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。労働力人口は $6,700 + 300 = 7,000$ 万人。 $300 \div 7,000 \times 100$ 4.3%である。
エ：この記述の評価理由は「就業者のみを分母にする計算ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「約4.3%」という記述に対応する。労働力人口は $6,700 + 300 = 7,000$ 万人。 $300 \div 7,000 \times 100$ 4.3%である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0016 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：標準

論点：仕事をしておらず、就職を希望しているが、景気が悪く仕事が見つからないと考えて最近では求職活動をしていない人について、労働力調査の基本的な区分として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「就職希望だけでは足りず、求職活動等の条件を満たす必要がある。」

- ア：対応する記述：求職活動をしていないため、基本集計では非労働力人口に分類される
- イ：対応する記述：過去に働いた経験があれば必ず就業者に分類される
- ウ：対応する記述：就職希望があるため就業者と完全失業者の両方に分類される
- エ：対応する記述：就職希望があるため必ず完全失業者に分類される

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「完全失業者には、仕事がなく、仕事があればすぐ就け、かつ求職活動をしていることなどの条件が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「就業者は調査期間中の就業実態等で分類され、過去の経験だけでは決まらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「就業状態の基本区分は重複しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。就職希望だけでは足りず、求職活動等の条件を満たす必要がある。
総合解説：提示された評価理由は「就職希望があるため必ず完全失業者に分類される」という記述に対応する。就職希望だけでは足りず、求職活動等の条件を満たす必要がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0017

経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：標準

論点：失業していた100万人が求職をあきらめ、非労働力人口へ移ったとする。他の条件が同じなら、測定上の完全失業率はどうなりやすいか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「完全失業者が減り、同時に労働力人口も減るため、失業率は低下し得る。雇用状況が改善したとは限らない点が重要である。」

- ア：対応する記述：低下し得る
- イ：対応する記述：必ず不変である
- ウ：対応する記述：就業者が増えるので低下する
- エ：対応する記述：必ず上昇する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。完全失業者が減り、同時に労働力人口も減るため、失業率は低下し得る。雇用状況が改善したとは限らない点が重要である。
イ：この記述の評価理由は「分子・分母の両方が変わるため不変とは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「この事例では就業者は増えておらず、求職断念による分類変更である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「完全失業者が減るので、他条件一定なら上昇方向ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「低下し得る」という記述に対応する。完全失業者が減り、同時に労働力人口も減るため、失業率は低下し得る。雇用状況が改善したとは限らない点が重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0018

経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：基礎

論点：CPIの基準改定を行う主な理由として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「CPIの基準改定はGDPの名目値と実質値を一致させる操作ではない。」

- ア：対応する記述：株価指数と同じ値になるように調整するため
- イ：対応する記述：名目GDPと実質GDPを必ず一致させるため
- ウ：対応する記述：過去の物価上昇率をすべてゼロに書き換えるため
- エ：対応する記述：家計の消費構造の変化や新しい財・サービスの出現を指数へ適切に反映するため

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「CPIは家計消費の物価指数であり株価に合わせるものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。CPIの基準改定はGDPの名目値と実質値を一致させる操作ではない。
ウ：この記述の評価理由は「基準改定は過去の物価変動を消すためではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「基準改定では基準時やウエイト等を更新し、現実の消費構造に近づける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「名目GDPと実質GDPを必ず一致させるため」という記述に対応する。CPIの基準改定はGDPの名目値と実質値を一致させる操作ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0019 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：標準

論点：景気動向指数の利用方法として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「先行指数は一般に景気の先行きを見る目的で使う。」

- ア：対応する記述：一致指数は景気の現状把握、先行指数は先行きの予測、遅行指数は事後的な確認に用いられる
- イ：対応する記述：一致指数は半年後の景気予測だけに用いる
- ウ：対応する記述：先行指数は過去の景気転換を確認するためだけに用いる
- エ：対応する記述：遅行指数は景気に先行して動くため政策予測に最も適する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「内閣府の利用手引では、先行・一致・遅行指数を景気との時間関係に応じて使い分ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「一致指数は主として現状把握に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。先行指数は一般に景気の先行きを見る目的で使う。
エ：この記述の評価理由は「遅行指数は一般に景気に遅れて動く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「先行指数は過去の景気転換を確認するためだけに用いる」という記述に対応する。先行指数は一般に景気の先行きを見る目的で使う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0020 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：応用

論点：景気動向指数のCIとDIについて最も適切な記述はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「CIは量感、DIは景気変化の波及度を把握する性格が強い。」

- ア：対応する記述：CIは景気が改善した系列数の割合だけを表し、DIは変化の大きさを合成する
- イ：対応する記述：CIとDIは計算方法も意味も完全に同一である
- ウ：対応する記述：DIは物価だけ、CIは雇用だけから構成される
- エ：対応する記述：CIは景気変動の大きさやテンポを把握するのに適し、DIは改善・悪化がどの程度の系列へ波及しているかを見るのに用いられる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「役割が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「同じ採用系列を用いても集約方法と示す情報が異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「両指数とも複数の経済部門の系列を利用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。CIは量感、DIは景気変化の波及度を把握する性格が強い。
総合解説：提示された評価理由は「CIは景気変動の大きさやテンポを把握するのに適し、DIは改善・悪化がどの程度の系列へ波及しているかを見るのに用いられる」という記述に対応する。CIは量感、DIは景気変化の波及度を把握する性格が強い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0021 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：標準

論点：名目賃金が前年比4%上昇し、同期間の物価が前年比3%上昇した。近似的な実質賃金の伸び率として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「名目賃金と物価の上昇率を足すのではない。」

- ア：対応する記述：約7%
- イ：対応する記述：約12%
- ウ：対応する記述：約1%
- エ：対応する記述：約3%

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。名目賃金と物価の上昇率を足すのではない。
イ：この記述の評価理由は「4%と3%から実質賃金が12%上昇する関係はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「実質賃金の伸びは概ね名目賃金上昇率 - 物価上昇率で考えられるため約1%である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これは物価上昇率であり実質賃金の伸びではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「約7%」という記述に対応する。名目賃金と物価の上昇率を足すのではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0022 経済指標・国民経済計算 > 物価・雇用・景気指標 | 難易度：応用

論点：CPIが前年の104から今年の109.2へ上昇した。CPIで測ったインフレ率はいくらか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「 $(109.2 - 104) \div 104 \times 100 = 5\%$ である。」

- ア：対応する記述：4.8%
- イ：対応する記述：5%
- ウ：対応する記述：5.2%
- エ：対応する記述：9.2%

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「分母を今年の指数109.2にすると約4.8%になるが、前年比は前年を分母とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $(109.2 - 104) \div 104 \times 100 = 5\%$ である。
ウ：この記述の評価理由は「指数の差5.2をそのまま%とみなすのは誤りである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「基準100からの乖離を前年比と混同している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「5%」という記述に対応する。 $(109.2 - 104) \div 104 \times 100 = 5\%$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0023

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：基礎

論点：国際収支統計の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「民間部門を含む幅広い対外取引を対象とする。」

- ア：対応する記述：一定期間における居住者と非居住者の間の対外経済取引を体系的に記録した統計
- イ：対応する記述：ある一時点の対外資産・負債残高だけを記録した統計
- ウ：対応する記述：政府部門の外貨取引だけを記録した統計
- エ：対応する記述：国内企業同士の取引だけを記録した統計

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「国際収支統計は財貨、サービス、所得、金融取引等の居住者と非居住者の取引を体系的に記録する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「一時点の残高は対外資産負債残高等であり、国際収支は一定期間のフローを記録する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。民間部門を含む幅広い対外取引を対象とする。
エ：この記述の評価理由は「国際収支は居住者と非居住者の取引を対象とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「政府部門の外貨取引だけを記録した統計」という記述に対応する。民間部門を含む幅広い対外取引を対象とする。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0024

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：標準

論点：国際収支統計における経常収支の主要な構成として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これらは金融収支の主要項目である。」

- ア：対応する記述：歳入、歳出、国債発行
- イ：対応する記述：貿易・サービス収支、第1次所得収支、第2次所得収支
- ウ：対応する記述：GDP、GNI、国民可処分所得
- エ：対応する記述：直接投資、証券投資、外貨準備だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「政府財政の区分であり国際収支の経常収支ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「BPM6準拠の経常収支は、主としてこれらの収支で構成される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「これらは国民経済計算の集計量であり、経常収支の構成項目ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これらは金融収支の主要項目である。
総合解説：提示された評価理由は「直接投資、証券投資、外貨準備だけ」という記述に対応する。これらは金融収支の主要項目である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0025

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：標準

論点：BPM6準拠の日本の国際収支統計で、居住者が海外証券を新たに取得し、対外金融資産が増加した場合の金融収支（資産側）の基本的な符号の考え方として適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「BPM6では金融収支は資産・負債の増減に着目し、資産増加はプラスとして表す。」

- ア：対応する記述：資産の増加としてプラス方向に記録される
- イ：対応する記述：資金流出なので必ずマイナス方向に記録される
- ウ：対応する記述：経常収支の輸入として記録される
- エ：対応する記述：GDPの政府支出として記録される

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。BPM6では金融収支は資産・負債の増減に着目し、資産増加はプラスとして表す。
イ：この記述の評価理由は「旧来の資金流入の符号感覚と異なり、BPM6では資産増加をプラスとする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「証券取得は金融取引であり財・サービスの輸入ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「対外証券取得は政府支出のGDP項目ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「資産の増加としてプラス方向に記録される」という記述に対応する。BPM6では金融収支は資産・負債の増減に着目し、資産増加はプラスとして表す。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0026

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：応用

論点：閉鎖性の低い一国経済で、国民貯蓄が国内投資を上回っているとする。統計上の調整を無視した基本的なマクロ恒等式から導かれる状況として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「貯蓄が投資を上回る場合は逆である。」

- ア：対応する記述：経常収支は国内貯蓄や投資と無関係である
- イ：対応する記述：経常収支は必ず赤字になり、海外から純借入する
- ウ：対応する記述：輸入がゼロになるまで為替レートが固定される
- エ：対応する記述：経常収支は黒字方向になりやすく、海外への純貸出が生じる

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「国民所得勘定上、経常収支と貯蓄・投資差には恒等関係がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。貯蓄が投資を上回る場合は逆である。
ウ：この記述の評価理由は「貯蓄投資差からそのような結論は導かれない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「経常収支は概ね国民貯蓄 - 国内投資と対応し、貯蓄超過は海外への資金供給と結びつく。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「経常収支は必ず赤字になり、海外から純借入する」という記述に対応する。貯蓄が投資を上回る場合は逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0027 経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：基礎

論点：1ドル＝150円から1ドル＝130円になった。円建てで見て円高・ドル安が進んだとき、他の条件が同じなら日本の輸入企業にとって最も起こりやすい直接的な影響はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「同じ1ドルの商品を購入するのに必要な円が150円から130円へ減るため、円換算輸入価格は低下しやすい。」

- ア：対応する記述：ドル建て輸入品の円換算価格が必ず上昇する
- イ：対応する記述：為替変動は貿易価格に影響しない
- ウ：対応する記述：ドル建て輸入品の円換算価格が低下しやすい
- エ：対応する記述：日本からの輸出品のドル建て価格が必ず低下する

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「円高なら同じドル価格を円へ換算した金額は低下する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「契約通貨や価格転嫁の程度にもよるが、換算価格には基本的な影響がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。同じ1ドルの商品を購入するのに必要な円が150円から130円へ減るため、円換算輸入価格は低下しやすい。
- エ：この記述の評価理由は「円建て輸出価格を据え置くと、ドル換算価格は上昇しやすい。企業の価格設定によって結果は変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「ドル建て輸入品の円換算価格が低下しやすい」という記述に対応する。同じ1ドルの商品を購入するのに必要な円が150円から130円へ減るため、円換算輸入価格は低下しやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0028 経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：標準

論点：名目為替レートを「1外国通貨単位当たりの自国通貨」、国内物価をP、外国物価をP*とし、実質為替レートを概念的に $e \times P^*/P$ とする。この値が上昇することの基本的な意味として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「金利平価とは別の概念である。」

- ア：対応する記述：外国財が自国財に比べ相対的に高くなり、自国財の価格競争力が高まる方向を示す
- イ：対応する記述：自国財が外国財に比べ必ず高くなり、輸出競争力が低下する
- ウ：対応する記述：国内外の物価とは無関係に名目為替だけで決まる
- エ：対応する記述：実質為替レートは金利だけから計算される

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「この定義では実質為替レート上昇は実質的な自国通貨安に対応し、自国財が相対的に安くなる方向を示す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「この定義の上昇は逆方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「実質為替レートは名目為替と内外物価の双方を含む。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。金利平価とは別の概念である。

総合解説：提示された評価理由は「実質為替レートは金利だけから計算される」という記述に対応する。金利平価とは別の概念である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0029

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：標準

論点：相対的購買力平価の考え方に最も近いものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「購買力平価の基本的方向は逆である。」

ア：対応する記述：物価上昇率が高い国の通貨は必ず同率だけ上昇する

イ：対応する記述：為替レートは貿易可能財の価格や物価と無関係である

ウ：対応する記述：短期の為替レートは常に購買力平価から一切乖離しない

エ：対応する記述：長期的には、物価上昇率が相対的に高い国の通貨は下落する方向の圧力を受ける

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。購買力平価の基本的方向は逆である。

イ：この記述の評価理由は「購買力平価は価格比較から為替を考える理論である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「取引費用、非貿易財、資本移動、期待等により短期には大きく乖離し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「相対的購買力平価では二国間のインフレ率格差と通貨価値の変化が対応すると考える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「物価上昇率が高い国の通貨は必ず同率だけ上昇する」という記述に対応する。購買力平価の基本的方向は逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0030

経済指標・国民経済計算 > 国際収支・為替・経済事情 | 難易度：応用

論点：自国通貨が減価した直後、数量調整に時間がかかるため、貿易収支がいったん悪化し、その後改善する現象を何というか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「為替変動後、契約や数量調整の遅れにより貿易収支が短期に悪化し、時間とともに改善する経路をJカーブ効果という。」

ア：対応する記述：ラチェット効果

イ：対応する記述：Jカーブ効果

ウ：対応する記述：クラウドディングアウト

エ：対応する記述：流動性の罫

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「消費や価格などが一方向に調整されにくい現象等に用いられ、為替後の貿易収支経路とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。為替変動後、契約や数量調整の遅れにより貿易収支が短期に悪化し、時間とともに改善する経路をJカーブ効果という。

ウ：この記述の評価理由は「財政拡張が金利上昇を通じ民間投資を抑える現象である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「低金利下で貨幣需要が非常に金利弾力的になり金融政策の効果が弱まる状態を指す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「Jカーブ効果」という記述に対応する。為替変動後、契約や数量調整の遅れにより貿易収支が短期に悪化し、時間とともに改善する経路をJカーブ効果という。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0031 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：基礎

論点：財市場が均衡する所得と利子率の関係を図示するIS曲線について、正しい説明はどれか。
次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これはLM曲線の説明である。」

- ア：対応する記述：財市場を均衡させる所得と利子率の組合せを表す
- イ：対応する記述：労働市場だけを均衡させる実質賃金と雇用の組合せを表す
- ウ：対応する記述：貨幣市場を均衡させる所得と利子率の組合せを表す
- エ：対応する記述：物価と失業率の短期的関係を表す

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「IS曲線は計画支出と産出が一致する財市場均衡の組合せを表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「IS曲線は財市場の関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはLM曲線の説明である。
エ：この記述の評価理由は「これはフィリップス曲線に関する説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「貨幣市場を均衡させる所得と利子率の組合せを表す」という記述に対応する。これはLM曲線の説明である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0032 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：IS曲線が通常右下がりになる主な理由として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「利子率低下は利子率感応的支出を刺激し、総需要と均衡所得を増やすため、ISは右下がりとなる。」

- ア：対応する記述：利子率が低下すると貨幣需要が減り、所得も必ず減るため
- イ：対応する記述：所得が増えると必ず税率がゼロになるため
- ウ：対応する記述：利子率が上がるほど投資が増えると仮定するため
- エ：対応する記述：利子率が低下すると投資等が増え、財市場均衡に対応する所得が高くなるため

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「貨幣需要はLM側の説明であり、ISの右下がりの主因ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「税率がゼロになることはISの傾きを説明しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「通常は投資は利子率上昇で減ると仮定する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。利子率低下は利子率感応的支出を刺激し、総需要と均衡所得を増やすため、ISは右下がりとなる。
総合解説：提示された評価理由は「利子率が低下すると投資等が増え、財市場均衡に対応する所得が高くなるため」という記述に対応する。利子率低下は利子率感応的支出を刺激し、総需要と均衡所得を増やすため、ISは右下がりとなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0033 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：基礎

論点：実質貨幣供給と貨幣需要の均衡から導かれるLM曲線が表すものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「貨幣市場均衡とは異なる。」

- ア：対応する記述：労働供給と労働需要を一致させる賃金と雇用の組合せを表す
- イ：対応する記述：輸出と輸入を一致させる為替と所得の組合せを表す
- ウ：対応する記述：実質貨幣供給と実質貨幣需要を一致させる所得と利子率の組合せを表す
- エ：対応する記述：貯蓄と投資を一致させる物価と所得の組合せだけを表す

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。貨幣市場均衡とは異なる。
イ：この記述の評価理由は「国際収支や開放経済モデルの関係であり、基本LM曲線ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「LM曲線は貨幣市場均衡を表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「財市場均衡の考え方に近く、LMの説明ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「労働供給と労働需要を一致させる賃金と雇用の組合せを表す」という記述に対応する。貨幣市場均衡とは異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0034 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：名目貨幣供給と物価水準が一定のもとで所得が増加した場合、通常のLM曲線上で利子率が上昇する理由として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「基本IS-LMでは名目貨幣供給は政策的に所与と置く。」

- ア：対応する記述：取引目的等の貨幣需要が増えるため、貨幣市場を均衡させるには利子率上昇による貨幣需要の抑制が必要になる
- イ：対応する記述：所得増加で貨幣供給が自動的に同率増えるから
- ウ：対応する記述：所得増加で投資が必ずゼロになるから
- エ：対応する記述：所得増加で物価が必ず下落するから

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「所得増加は貨幣需要を増やすため、固定された実質貨幣供給のもとでは利子率が上がって均衡する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。基本IS-LMでは名目貨幣供給は政策的に所与と置く。
ウ：この記述の評価理由は「投資がゼロになることはLMの上昇理由ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「短期IS-LMでは物価を所与とする単純化が一般的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「所得増加で貨幣供給が自動的に同率増えるから」という記述に対応する。基本IS-LMでは名目貨幣供給は政策的に所与と置く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0035 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：物価水準や貨幣供給が一定のIS-LMモデルで、政府支出が増加したときの直接的な曲線シフトとして最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「政府支出増加は各利子率における計画支出を増やし、財市場均衡所得を高めるためISを右へ動かす。」

- ア：対応する記述：LM曲線が左方へシフトする
- イ：対応する記述：LM曲線が右方へシフトする
- ウ：対応する記述：IS曲線が右方へシフトする
- エ：対応する記述：IS曲線が左方へシフトする

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「政府支出増加そのものはLMを直接左へ動かさない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「貨幣供給や物価が変わらなければLMの直接シフト要因ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。政府支出増加は各利子率における計画支出を増やし、財市場均衡所得を高めるためISを右へ動かす。
- エ：この記述の評価理由は「政府支出増加は総需要を増やす方向であり、通常は右シフトである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「IS曲線が右方へシフトする」という記述に対応する。政府支出増加は各利子率における計画支出を増やし、財市場均衡所得を高めるためISを右へ動かす。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0036 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：応用

論点：物価水準が一定で、中央銀行が名目貨幣供給を増やした場合、基本的なIS-LMモデルで最も適切な変化はどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「貨幣供給増加は直接には貨幣市場を通じLMを動かす。」

- ア：対応する記述：IS曲線が左方へシフトする
- イ：対応する記述：LM曲線が右下方へシフトする
- ウ：対応する記述：LM曲線が左上方へシフトする
- エ：対応する記述：IS曲線が右方へシフトする

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「金融緩和の直接効果はISの左シフトではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「実質貨幣供給が増えると、同じ所得で貨幣市場を均衡させる利子率が低くなるためLMが右下方へシフトする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「貨幣供給減少なら左上方へ動く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。貨幣供給増加は直接には貨幣市場を通じLMを動かす。

総合解説：提示された評価理由は「IS曲線が右方へシフトする」という記述に対応する。貨幣供給増加は直接には貨幣市場を通じLMを動かす。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0037

マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：基礎

論点：通常の右下がりIS曲線と右上がりLM曲線を仮定する。政府支出増加でIS曲線が右へシフトし、LM曲線は不変であるとき、新しい均衡について最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「IS右シフトにより総需要が増え、所得が上昇すると貨幣需要も増えるため、貨幣市場均衡には利子率上昇が伴う。」

- ア：対応する記述：所得と利子率はいずれも上昇する
イ：対応する記述：所得は上昇するが利子率は低下する
ウ：対応する記述：所得は低下し利子率は上昇する
エ：対応する記述：所得も利子率も必ず不変である

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。IS右シフトにより総需要が増え、所得が上昇すると貨幣需要も増えるため、貨幣市場均衡には利子率上昇が伴う。

イ：この記述の評価理由は「LMが通常右上がりなら所得増加に対応して利子率は上昇する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「財政拡張によるIS右シフトの基本結果と逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「曲線がシフトすれば通常均衡点も変化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「所得と利子率はいずれも上昇する」という記述に対応する。IS右シフトにより総需要が増え、所得が上昇すると貨幣需要も増えるため、貨幣市場均衡には利子率上昇が伴う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0038

マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：通常のIS-LMモデルで、IS曲線が不変のまま金融緩和によりLM曲線が右下方へシフトした。新しい均衡について最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「LM右下シフトでは所得は通常増加する。」

- ア：対応する記述：所得は上昇し、利子率は低下する
イ：対応する記述：所得は低下し、利子率も低下する
ウ：対応する記述：所得は低下し、利子率は上昇する
エ：対応する記述：所得も利子率も上昇する

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「貨幣供給増加は利子率を下げ、投資等を刺激して所得を増やす方向に働く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。LM右下シフトでは所得は通常増加する。

ウ：この記述の評価理由は「金融引締めの方に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「金融緩和では利子率は通常低下方向に動く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「所得は低下し、利子率も低下する」という記述に対応する。LM右下シフトでは所得は通常増加する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0039 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：利子率が非常に低く、貨幣需要の利子弾力性が極めて大きい「流動性の罫」に近い状況を考える。通常のIS-LM分析で最も適切な説明はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「流動性の罫」ではLMは水平に近いとされ、財政政策は相対的に有効になり得る。」

- ア：対応する記述：IS曲線が必ず垂直になり、投資は金利に無関係になる
- イ：対応する記述：貨幣需要がゼロになるため、金融政策は極端に強力になる
- ウ：対応する記述：LM曲線は垂直になり、財政政策が完全に無効になる
- エ：対応する記述：LM曲線は水平に近くなり、貨幣供給増加による利子率低下と所得押上げの効果が弱くなりやすい

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「流動性の罫は主に貨幣需要側の性質である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「貨幣需要が非常に金利弾力的になる状況でありゼロになるわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。流動性の罫ではLMは水平に近いとされ、財政政策は相対的に有効になり得る。
エ：この記述の評価理由は「追加的な貨幣が貨幣保有に吸収されやすく、金融緩和の伝統的な金利経路が弱まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「LM曲線は垂直になり、財政政策が完全に無効になる」という記述に対応する。流動性の罫ではLMは水平に近いとされ、財政政策は相対的に有効になり得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0040 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：応用

論点：所得を横軸、利子率を縦軸にとる。投資の利子率感応度が大きくなったとき、IS曲線の形状はどのように変わるか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「小さな利子率変化で投資と均衡所得が大きく変わるため、所得を横軸・利子率を縦軸に取るIS曲線はより平坦になる。」

- ア：対応する記述：傾きは貨幣供給だけで決まり、投資感応度とは無関係である
- イ：対応する記述：より急になる
- ウ：対応する記述：必ず垂直になる
- エ：対応する記述：より緩やかになる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「ISの傾きは投資の金利感応度や乗数等に左右される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「投資の利子感応度が高いほど、同じ利子率変化に対する所得変化が大きくなり平坦化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「垂直は投資が利子率に全く反応しない極端な場合に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。小さな利子率変化で投資と均衡所得が大きく変わるため、所得を横軸・利子率を縦軸に取るIS曲線はより平坦になる。
総合解説：提示された評価理由は「より緩やかになる」という記述に対応する。小さな利子率変化で投資と均衡所得が大きく変わるため、所得を横軸・利子率を縦軸に取るIS曲線はより平坦になる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0041 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：基礎

論点：所得の増加で貨幣需要が増えた際、わずかな利子率上昇で貨幣需要を大きく減らせる経済を考える。このときLM曲線の形状として適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「貨幣需要の利子感応度が高いほど、少しの金利変化で貨幣需要を調整できるため平坦化する。」

- ア：対応する記述：より急になる
- イ：対応する記述：必ず垂直になる
- ウ：対応する記述：IS曲線だけが変化しLM曲線は不変である
- エ：対応する記述：より緩やかになる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。貨幣需要の利子感応度が高いほど、少しの金利変化で貨幣需要を調整できるため平坦化する。
イ：この記述の評価理由は「貨幣需要が利子率に反応しない極端な場合に垂直に近づく。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「貨幣需要の性質はLMの傾きに直接影響する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「所得増による貨幣需要増加を相殺するために必要な利子率上昇が小さくなるので、LMIは平坦化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「より急になる」という記述に対応する。貨幣需要の利子感応度が高いほど、少しの金利変化で貨幣需要を調整できるため平坦化する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0042 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：政府支出の増加が民間投資を一部押しつける「クラウディングアウト」のIS-LM上の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「LMが右上がり、貨幣供給が一定なら、IS右シフトに伴う利子率上昇が投資を減らし、乗数効果を一部相殺する。」

- ア：対応する記述：輸入増加によってGDP統計から政府支出が除外されることをいう
- イ：対応する記述：財政拡張で所得が増え貨幣需要が増加し、利子率が上昇して民間投資が抑制される
- ウ：対応する記述：政府支出が増えると利子率が必ず低下し、投資が減る
- エ：対応する記述：金融緩和で利子率が下がり投資が増えることをいう

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「クラウディングアウトは主に政府需要が金利等を通じ民間需要を抑える現象を指す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。LMが右上がり、貨幣供給が一定なら、IS右シフトに伴う利子率上昇が投資を減らし、乗数効果を一部相殺する。
ウ：この記述の評価理由は「通常のIS-LMでは財政拡張は利子率上昇方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これはクラウディングアウトではなく金融緩和の伝達である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「財政拡張で所得が増え貨幣需要が増加し、利子率が上昇して民間投資が抑制される」という記述に対応する。LMが右上がり、貨幣供給が一定なら、IS右シフトに伴う利子率上昇が投資を減らし、乗数効果を一部相殺する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0043 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：標準

論点：租税や輸入を無視した単純なケインズ型モデルで、限界消費性向が0.8である。政府支出が10増加したとき、乗数効果による均衡所得の増加はいくらか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「限界消費性向0.8のとき乗数は10ではなく5である。」

- ア：対応する記述：12.5
- イ：対応する記述：8
- ウ：対応する記述：100
- エ：対応する記述：50

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「 $1 \div 0.8$ を乗数として使うのは誤りである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「 $10 \times$ 限界消費性向0.8は一次的な追加消費であり、連鎖的な乗数効果を含まない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。限界消費性向0.8のとき乗数は10ではなく5である。
エ：この記述の評価理由は「政府支出乗数は $1 \div (1 - 0.8) = 5$ なので、所得増加は $10 \times 5 = 50$ となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「100」という記述に対応する。限界消費性向0.8のとき乗数は10ではなく5である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0044 マクロ経済理論・政策 > 財市場・貨幣市場・IS-LM | 難易度：応用

論点：景気を押し上げつつ利子率の上昇を抑えたいとする。標準的なIS-LMの短期分析で、方向として最も整合的な政策ミックスはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「両者は金利を上げる方向に作用しやすく、金利上昇抑制の目的に合わない。」

- ア：対応する記述：緊縮財政政策と金融引締めを組み合わせる
- イ：対応する記述：緊縮財政政策だけを行い貨幣供給も減らす
- ウ：対応する記述：拡張的財政政策と拡張的金融政策を組み合わせる
- エ：対応する記述：拡張的財政政策と金融引締めを組み合わせる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「両者とも景気を抑える方向に働く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「所得押上げの目的と逆方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「財政拡張はISを右へ動かし所得と金利を上げるが、金融緩和でLMを右下へ動かすと金利上昇を抑えつつ所得を押し上げやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。両者は金利を上げる方向に作用しやすく、金利上昇抑制の目的に合わない。
総合解説：提示された評価理由は「拡張的財政政策と金融引締めを組み合わせる」という記述に対応する。両者は金利を上げる方向に作用しやすく、金利上昇抑制の目的に合わない。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0045 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：基礎

論点：景気後退時に、特別な法改正を行わなくても税収が減少し、失業給付等が増えることで可処分所得の落ち込みを和らげる仕組みを何というか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「累進課税や失業給付などは景気変動に応じ自動的に財政収支を変化させ、需要の変動を緩和する。」

- ア：対応する記述：自動安定化装置（ビルトイン・スタビライザー）
- イ：対応する記述：Jカーブ効果
- ウ：対応する記述：クラウドディングアウト
- エ：対応する記述：公開市場操作

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。累進課税や失業給付などは景気変動に応じ自動的に財政収支を変化させ、需要の変動を緩和する。
イ：この記述の評価理由は「為替変動後の貿易収支の時間的調整を表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「政府支出増による金利上昇等が民間支出を抑える現象である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「中央銀行が金融市場で資産を売買する金融政策手段である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「自動安定化装置（ビルトイン・スタビライザー）」という記述に対応する。累進課税や失業給付などは景気変動に応じ自動的に財政収支を変化させ、需要の変動を緩和する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0046 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：標準

論点：裁量的な公共投資を景気対策として実施する場合に問題となりやすい「内部ラグ」の説明として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは政策実施後の外部ラグに近い。」

- ア：対応する記述：景気悪化の認識、政策決定、予算措置などに時間がかかること
- イ：対応する記述：政策実施後に家計や企業の支出が反応するまで時間がかかることだけ
- ウ：対応する記述：為替が毎日変動すること
- エ：対応する記述：CPIの基準年を改定すること

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「政策の必要性を認識し決定・実施に至るまでの遅れが内部ラグである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは政策実施後の外部ラグに近い。
ウ：この記述の評価理由は「為替変動そのものは政策ラグの定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「統計上の基準改定であり財政政策ラグではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「政策実施後に家計や企業の支出が反応するまで時間がかかることだけ」という記述に対応する。これは政策実施後の外部ラグに近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0047 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：基礎

論点：景気後退期に政府が減税を行うことの短期的な需要面の効果として最も適切なものはどれか。
。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「減税は可処分所得を増やし、その一部が消費へ回ることによって総需要を刺激する。」

- ア：対応する記述：潜在GDPを必ず直ちに増やす
- イ：対応する記述：貨幣供給を直接減少させる
- ウ：対応する記述：家計の可処分所得を増やし、消費を通じて総需要を押し上げる方向に働く
- エ：対応する記述：家計の可処分所得を減らすため総需要を抑える

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「短期的な需要効果と潜在成長率・供給能力の変化は区別する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「減税は財政政策であり、貨幣供給を直接操作する政策ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。減税は可処分所得を増やし、その一部が消費へ回ることによって総需要を刺激する。
- エ：この記述の評価理由は「減税の直接効果は可処分所得を増やす方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「家計の可処分所得を増やし、消費を通じて総需要を押し上げる方向に働く」という記述に対応する。減税は可処分所得を増やし、その一部が消費へ回ることによって総需要を刺激する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0048 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：標準

論点：政府債務残高のGDP比について、他の条件を単純化したとき、名目利率が名目GDP成長率を上回る状況が続く場合の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。
この解説の対象となる記述を選べ。「分母の成長が遅いほど比率を押し上げやすい。」

- ア：対応する記述：基礎的財政収支は債務GDP比と無関係である
- イ：対応する記述：基礎的財政収支が十分な黒字でなければ、債務GDP比には上昇圧力がかかりやすい
- ウ：対応する記述：債務GDP比は自動的にゼロへ収束する
- エ：対応する記述：名目GDP成長率が低いほど債務GDP比は必ず低下する

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「基礎的収支は債務の増減に直接関係する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「利率が成長率を上回ると既存債務の利払い負担がGDPより速く増えやすく、債務比率安定にはより強い基礎的収支が必要になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「利率が成長率を上回る場合はむしろ上昇圧力となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。分母の成長が遅いほど比率を押し上げやすい。

総合解説：提示された評価理由は「名目GDP成長率が低いほど債務GDP比は必ず低下する」という記述に対応する。分母の成長が遅いほど比率を押し上げやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0049 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：標準

論点：単純な定額税モデルで限界消費性向が0.75である。定額税が20増加したときの均衡所得の変化を、租税乗数 $-c/(1-c)$ を用いて求めるといくらか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「増税は可処分所得と消費を減らすため、所得を増やす方向ではない。」

- ア：対応する記述：20増加
- イ：対応する記述：60減少
- ウ：対応する記述：80減少
- エ：対応する記述：15減少

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。増税は可処分所得と消費を減らすため、所得を増やす方向ではない。
イ：この記述の評価理由は「租税乗数は $-0.75 \div 0.25 = -3$ 。税20増で所得は -60となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「政府支出乗数4をそのまま税額に掛けると -80になるが、税乗数は -3である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「税額 20×0.75 は初期消費減少15であり、乗数過程を含めると所得減少は60になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「20増加」という記述に対応する。増税は可処分所得と消費を減らすため、所得を増やす方向ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0050 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：基礎

論点：日本銀行の金融政策について最も適切な記述はどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「日本銀行は中央銀行として物価の安定を金融政策の中心的な目的としている。」

- ア：対応する記述：政府の毎年度予算を決定することが主要業務である
- イ：対応する記述：物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資するよう、金融政策を運営する
- ウ：対応する記述：すべての銀行の貸出金利を同一に設定することが目的である
- エ：対応する記述：株価を一定水準に固定することだけが法的な目的である

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「予算の決定は政府・国会の財政過程であり日本銀行の金融政策業務ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。日本銀行は中央銀行として物価の安定を金融政策の中心的な目的としている。
ウ：この記述の評価理由は「金融政策は市場金利等へ影響を及ぼすが、個別銀行の全貸出金利を一律設定するものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「株価の固定が金融政策の目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資するよう、金融政策を運営する」という記述に対応する。日本銀行は中央銀行として物価の安定を金融政策の中心的な目的としている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0051 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：標準

論点：中央銀行が政策金利を引き上げ、他の条件が同じときに想定される基本的な金融政策の伝達経路として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「政策金利上げの方向と逆である。」

- ア：対応する記述：GDP統計上の輸出を機械的にゼロにする
- イ：対応する記述：労働力人口を必ず減少させる
- ウ：対応する記述：借入コストが低下して投資が増えるため、総需要を強める
- エ：対応する記述：市場金利や資金調達コストの上昇を通じて投資・住宅需要等を抑制し、総需要を弱める方向に働く

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「政策金利変更にそのような会計上の直接効果はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「労働市場への波及はあり得るが、政策金利引上げが労働力人口を機械的に減らすわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。政策金利上げの方向と逆である。
エ：この記述の評価理由は「政策金利上昇は金融環境を引き締め、利子率感応的な支出を抑える経路を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「借入コストが低下して投資が増えるため、総需要を強める」という記述に対応する。政策金利上げの方向と逆である。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0052 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：応用

論点：中央銀行が市場から債券等を買って資金を供給する公開市場操作を行う場合、他の条件が同じなら基本的にどの方向の効果を狙うか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「資産買入れは中央銀行マネーを供給し、金融環境を緩和する方向に作用する。」

- ア：対応する記述：輸入関税を引き上げる通商政策
- イ：対応する記述：金融市場から資金を吸収し、金利を上昇させる方向の引締め
- ウ：対応する記述：政府支出を直接削減する財政緊縮
- エ：対応する記述：金融市場へ資金を供給し、金利を低下させる方向の金融緩和

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「金融政策とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「これは債券売却等による資金吸収の方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「公開市場操作は金融政策手段であり政府予算を直接削減するものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。資産買入れは中央銀行マネーを供給し、金融環境を緩和する方向に作用する。
総合解説：提示された評価理由は「金融市場へ資金を供給し、金利を低下させる方向の金融緩和」という記述に対応する。資産買入れは中央銀行マネーを供給し、金融環境を緩和する方向に作用する。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0053 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：標準

論点：名目金利が3%、期待インフレ率が2%である。フィッシャー方程式の近似 $r_i - \pi_e$ を用いると期待実質金利はいくらか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「3%と2%から6%にはならない。」

- ア：対応する記述：約6%
- イ：対応する記述：約5%
- ウ：対応する記述：約1.5%
- エ：対応する記述：約1%

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。3%と2%から6%にはならない。
イ：この記述の評価理由は「名目金利と期待インフレ率を足すのではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「名目金利を期待インフレ率で割る関係ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「 $3\% - 2\% = 約1\%$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「約6%」という記述に対応する。3%と2%から6%にはならない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0054 マクロ経済理論・政策 > 財政政策・金融政策 | 難易度：応用

論点：中央銀行が明確な物価安定目標を示すことの理論的な役割として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「物価目標は個別価格の行政統制ではない。」

- ア：対応する記述：為替レートを一切変動しないよう法的に固定する
- イ：対応する記述：企業のすべての販売価格を中央銀行が直接決定できるようにする
- ウ：対応する記述：将来の物価に関する期待を安定させ、賃金・価格設定や実質金利の形成に影響を与えることが期待される
- エ：対応する記述：実質GDP成長率を毎年必ず同じ値に固定する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「インフレ目標と固定為替制度は別の政策枠組みである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。物価目標は個別価格の行政統制ではない。
ウ：この記述の評価理由は「期待インフレ率が安定すると、経済主体の意思決定や金融政策の伝達が安定しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「物価目標は実質成長率を保証するものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「企業のすべての販売価格を中央銀行が直接決定できるようにする」という記述に対応する。物価目標は個別価格の行政統制ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0055 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：基礎

論点：AD-ASモデルで総需要曲線が通常右下がりに描かれる説明として最も適切なものはどれか。
。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。
。「物価低下は実質貨幣残高や実質資産、純輸出等を通じ総需要を増やす方向に働く。」

- ア：対応する記述：物価水準が高いほど実質貨幣供給が増えるため
イ：対応する記述：物価水準が下がるほど企業の生産費が必ず上昇するため
ウ：対応する記述：物価水準が低下すると実質貨幣残高が増え、金利低下などを通じて需要量が増える経路がある
エ：対応する記述：総需要は物価と無関係なので水平になるため

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「名目貨幣供給一定なら物価上昇は実質貨幣供給を減らす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「これは総供給側の議論でありAD右下がりの説明ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。物価低下は実質貨幣残高や実質資産、純輸出等を通じ総需要を増やす方向に働く。
エ：この記述の評価理由は「標準AD曲線は物価水準と需要量に負の関係を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「物価水準が低下すると実質貨幣残高が増え、金利低下などを通じて需要量が増える経路がある」という記述に対応する。物価低下は実質貨幣残高や実質資産、純輸出等を通じ総需要を増やす方向に働く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0056 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：標準

論点：短期総供給曲線（SRAS）が右上がりであるとき、政府支出増加などでAD曲線が右へシフトした場合の短期均衡として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「右上がりSRAS上のAD右シフトでは物価は上昇方向である。」

- ア：対応する記述：実質産出量は低下し物価も低下する
イ：対応する記述：実質産出量だけが変化し物価は常に固定される
ウ：対応する記述：実質産出量と物価水準がともに上昇する
エ：対応する記述：実質産出量は増えるが物価水準は必ず低下する

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「これは負の需要ショックに近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「SRASが右上がりなら物価も変化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「AD右シフトは短期に需要を増やし、SRAS上で産出量と物価をともに押し上げる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。右上がりSRAS上のAD右シフトでは物価は上昇方向である。

総合解説：提示された評価理由は「実質産出量は増えるが物価水準は必ず低下する」という記述に対応する。右上がりSRAS上のAD右シフトでは物価は上昇方向である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0057 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：標準

論点：原油価格の急上昇などで短期総供給曲線が左へシフトした場合、ADが不変なら短期的に起こりやすい組合せはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「負の供給ショックはコストを押し上げてSRASを左へ動かし、インフレと景気悪化が同時に起こるスタグフレーションを生じ得る。」

- ア：対応する記述：物価上昇と実質産出量減少
- イ：対応する記述：物価も実質産出量も必ず不変
- ウ：対応する記述：物価低下と実質産出量増加
- エ：対応する記述：物価上昇と実質産出量増加

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。負の供給ショックはコストを押し上げてSRASを左へ動かし、インフレと景気悪化が同時に起こるスタグフレーションを生じ得る。
イ：この記述の評価理由は「SRASのシフトにより均衡は変化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「これは正の供給ショックの方向に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「正の需要ショックの短期結果に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「物価上昇と実質産出量減少」という記述に対応する。負の供給ショックはコストを押し上げてSRASを左へ動かし、インフレと景気悪化が同時に起こるスタグフレーションを生じ得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0058 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：応用

論点：標準的なAD-ASモデルで長期総供給曲線（LRAS）が潜在GDPの位置で垂直に描かれる理由として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「ADが変動しても長期には物価調整を通じ潜在産出量へ戻るという考え方である。」

- ア：対応する記述：長期には価格が全く変化しないと仮定するため
- イ：対応する記述：長期には総需要が常に一定になるため
- ウ：対応する記述：長期の実質産出量は主として労働・資本・技術など実物要因で決まり、物価水準そのものには依存しないと考えるため
- エ：対応する記述：長期には失業率が必ずゼロになるため

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「LRASが垂直なのは価格固定を仮定するからではなく、実質産出量が物価水準から独立すると考えるからである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ADが変動しても長期には物価調整を通じ潜在産出量へ戻るという考え方である。
ウ：この記述の評価理由は「長期には名目変数と実質変数を区別し、潜在産出量は生産要素と技術で決まると考える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「自然失業率はゼロとは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「長期には総需要が常に一定になるため」という記述に対応する。ADが変動しても長期には物価調整を通じ潜在産出量へ戻るという考え方である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0059 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：基礎

論点：需要が生産能力を上回るほど強まり、物価上昇圧力が生じる「需要牽引型インフレ」に最も近い状況はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは費用押上げ型インフレの典型である。」

- ア：対応する記述：失業率が上昇し需要が弱まる
- イ：対応する記述：大規模な需要拡大でADが右へシフトし、需給が逼迫する
- ウ：対応する記述：輸入原材料価格の上昇で企業の生産費が増える
- エ：対応する記述：技術革新で生産性が上昇し供給能力が拡大する

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「需要不足は需要牽引型インフレとは逆方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「総需要の増加が物価上昇の主因となるのが需要牽引型インフレである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは費用押上げ型インフレの典型である。
- エ：この記述の評価理由は「供給増加は一般に物価上昇圧力を弱める方向に働く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「輸入原材料価格の上昇で企業の生産費が増える」という記述に対応する。これは費用押上げ型インフレの典型である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0060 マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：標準

論点：期待インフレ率や供給ショックが一定という単純化のもとで、短期フィリップス曲線が示す関係として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「短期には需要の強さを通じ失業とインフレにトレードオフが表れることがある。」

- ア：対応する記述：失業率とインフレ率は短期にも常に無関係である
- イ：対応する記述：自然失業率は物価上昇率と同じ数値になる
- ウ：対応する記述：失業率が低いほど必ずデフレ率が高まる
- エ：対応する記述：失業率が自然失業率を下回ると、インフレ率が高まりやすい

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「期待等を所与とする標準形では負の関係が示される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「自然失業率とインフレ率は別の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「短期フィリップス曲線の基本方向と逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。短期には需要の強さを通じ失業とインフレにトレードオフが表れることがある。
- 総合解説：提示された評価理由は「失業率が自然失業率を下回ると、インフレ率が高まりやすい」という記述に対応する。短期には需要の強さを通じ失業とインフレにトレードオフが表れることがある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0061

マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：標準

論点：期待インフレ率が実際のインフレ率へ適応していくとする標準的な説明で、長期フィリップス曲線が自然失業率の位置で垂直となる含意として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「期待調整を考えるとそのような恒久的トレードオフはない。」

ア：対応する記述：長期にはインフレ率を高めるほど失業率を永久にゼロへ近づけられる

イ：対応する記述：長期的にはインフレ率を恒常的に高めても失業率を自然失業率より低く維持できない

ウ：対応する記述：長期失業率は貨幣供給だけで決まり、労働市場制度とは無関係である

エ：対応する記述：長期には物価水準が固定されるため失業も固定される

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。期待調整を考えるとそのような恒久的トレードオフはない。
イ：この記述の評価理由は「期待が調整されると短期のトレードオフは消え、長期失業率は自然失業率へ戻る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「自然失業率は労働市場の摩擦や制度等の実物要因に左右される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「物価固定が垂直性の理由ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「長期にはインフレ率を高めるほど失業率を永久にゼロへ近づけられる」という記述に対応する。期待調整を考えるとそのような恒久的トレードオフはない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0062

マクロ経済理論・政策 > AD-AS・インフレ・失業・景気循環 | 難易度：応用

論点：オウクンの法則の経験的な関係として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「産出ギャップと失業率ギャップには通常負の関係が観察される。」

ア：対応する記述：実質GDPと失業率の間には理論上も経験上も一切関係がない

イ：対応する記述：実質GDPが潜在GDPを下回る景気後退局面では、失業率が自然失業率を上回りやすい

ウ：対応する記述：オウクンの法則は物価指数の基準改定方法を示す

エ：対応する記述：実質GDPが潜在GDPを下回るほど失業率も必ず低下する

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「短期の景気変動では一定の経験的關係が知られている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。産出ギャップと失業率ギャップには通常負の關係が観察される。

ウ：この記述の評価理由は「雇用と産出の關係に関する経験則である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「方向が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「実質GDPが潜在GDPを下回る景気後退局面では、失業率が自然失業率を上回りやすい」という記述に対応する。産出ギャップと失業率ギャップには通常負の關係が観察される。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0063

消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：基礎

論点：財Xを横軸、財Yを縦軸にとり、価格をPx、Py、所得をIとする。予算制約 $P_xX + P_yY = I$ の予算線の傾きとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「これはY切片であり傾きではない。」

- ア：対応する記述： - P_y/P_x
イ：対応する記述： - P_x/P_y
ウ：対応する記述： I/P_y
エ：対応する記述： I/P_x

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「価格比が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「 $Y = I/P_y - (P_x/P_y)X$ と変形できるため傾きは - P_x/P_y である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはY切片であり傾きではない。
エ：この記述の評価理由は「これはX切片であり傾きではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「 I/P_y 」という記述に対応する。これはY切片であり傾きではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0064

消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：標準

論点：2財の価格がともに不変のまま消費者の所得だけが増加した場合、予算線はどう変化するか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「所得増加は両財の購入可能量を増やすため両切片が変わる。」

- ア：対応する記述：傾きは変わらず、外側へ平行移動する
イ：対応する記述：Y切片だけが減って内側へ回転する
ウ：対応する記述：傾きが必ずゼロになる
エ：対応する記述：X切片だけが増えて予算線が回転する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「傾きは価格比で決まり、所得増加は両切片を同じ比例で拡大する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「所得増加の方向と逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「価格比が変わらない限り傾きは変わらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。所得増加は両財の購入可能量を増やすため両切片が変わる。
総合解説：提示された評価理由は「X切片だけが増えて予算線が回転する」という記述に対応する。所得増加は両財の購入可能量を増やすため両切片が変わる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0065

消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：基礎

論点：所得Iと財Yの価格Pyが一定のまま、財Xの価格Pxだけが低下した。予算線の変化として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「X切片I/PxはPx低下で増えるが、Y切片I/Pyは変わらない。」

- ア：対応する記述：Y切片は不変で、X切片が外側へ移動するように予算線が回転する
- イ：対応する記述：両切片が同じ割合で外側へ移動する
- ウ：対応する記述：両切片が不変のまま傾きだけ変わる
- エ：対応する記述：X切片は不変で、Y切片だけ外側へ移動する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。X切片I/PxはPx低下で増えるが、Y切片I/Pyは変わらない。
イ：この記述の評価理由は「これは所得増加のときの平行移動に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「X切片も変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「変化するのはXの価格なのでX切片が変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Y切片は不変で、X切片が外側へ移動するように予算線が回転する」という記述に対応する。X切片I/PxはPx低下で増えるが、Y切片I/Pyは変わらない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0066

消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：標準

論点：限界効用の説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは総効用に近い。」

- ア：対応する記述：所得1単位当たりの平均支出額
- イ：対応する記述：すべての財を消費したときの効用の総額
- ウ：対応する記述：ある財の消費量を1単位増やしたときに得られる効用の増加分
- エ：対応する記述：財1単位の市場価格

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「限界効用とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは総効用に近い。
ウ：この記述の評価理由は「限界効用は総効用の消費量に対する増分・微分として考える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「効用は選好を表す概念で、市場価格そのものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「すべての財を消費したときの効用の総額」という記述に対応する。これは総効用に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0067 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：標準

論点：財Xを横軸、財Yを縦軸にとる無差別曲線で、限界代替率MRSxyを「財Xを1単位増やすために消費者が手放してもよい財Yの量」と定義する。このとき最も適切な記述はどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「同じ効用を保つ財の交換比率が限界代替率であり、無差別曲線の傾きの絶対値に表れる。」

- ア：対応する記述：MRSxyは所得だけで決まり効用関数に依存しない
- イ：対応する記述：MRSxyは常に市場価格Pxと同じである
- ウ：対応する記述：無差別曲線の傾きの絶対値はMRSxyに対応する
- エ：対応する記述：無差別曲線が右上がりであればMRSは定義できない

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「MRSは選好・限界効用に依存する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「最適点では価格比と一致することがあるが、一般の点で常に同じではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。同じ効用を保つ財の交換比率が限界代替率であり、無差別曲線の傾きの絶対値に表れる。
エ：この記述の評価理由は「通常の望ましい財では無差別曲線は右下がりに描かれる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「無差別曲線の傾きの絶対値はMRSxyに対応する」という記述に対応する。同じ効用を保つ財の交換比率が限界代替率であり、無差別曲線の傾きの絶対値に表れる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0068 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：基礎

論点：両財を正の量だけ消費する内部解で、効用最大化点の条件として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「価格が異なってもMRSが価格比と一致すれば内部最適となる。」

- ア：対応する記述：MRSxy = I
- イ：対応する記述：MUx = MUy = 0
- ウ：対応する記述：MRSxy = Px / Py
- エ：対応する記述：Px = Py でなければ最適化できない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「所得は予算制約の切片を決めるが、接点条件そのものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「通常の内部最適で限界効用がゼロである必要はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「接点解では無差別曲線の傾きと予算線の傾きが一致し、限界代替率が価格比に等しくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。価格が異なってもMRSが価格比と一致すれば内部最適となる。
総合解説：提示された評価理由は「Px = Py でなければ最適化できない」という記述に対応する。価格が異なってもMRSが価格比と一致すれば内部最適となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0069 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：標準

論点：内部解で、財Xの限界効用 $MU_x = 12$ 、価格 $P_x = 3$ 、財Yの限界効用 $MU_y = 10$ 、価格 $P_y = 5$ である。現在の消費点について最も適切な判断はどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「計算するとYは2でXの4より低い。」

- ア：対応する記述：Yの限界効用/価格の方が高いのでYを増やすべきである
- イ：対応する記述：すでに最適である。限界効用が正なら必ず最適だから
- ウ：対応する記述：Xの限界効用/価格は4、Yは2なので、Xを増やしYを減らす方向に効用を高める余地がある
- エ：対応する記述： MU_x と MU_y が異なるので、価格に関係なくXとYを同量にすべきである

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。計算するとYは2でXの4より低い。
イ：この記述の評価理由は「両財の1円当たり限界効用が等しくないため、配分変更で改善できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「1円当たり限界効用はXが $12/3 = 4$ 、Yが $10/5 = 2$ 。最適内部解ではこれらが等しくなる方向へ配分を変える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「最適条件は限界効用の単純一致ではなく限界効用/価格の一致である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Yの限界効用/価格の方が高いのでYを増やすべきである」という記述に対応する。計算するとYは2でXの4より低い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0070 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：応用

論点：効用関数 $u(x,y)$ がある選好を表しているとき、 $v(x,y) = 2u(x,y) + 10$ について最も適切な記述はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「正の単調変換は効用水準の数値を変えても財束の順位を変えないため、同じ序数的選好を表す。」

- ア：対応する記述： v では必ず選好順序が逆転する
- イ：対応する記述： v は u と同じ選好順序を表す
- ウ：対応する記述：効用は基数的なので、数値が変われば必ず選好も変わる
- エ：対応する記述：定数10を加えると予算制約も10増える

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「係数2は正なので順位は維持される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。正の単調変換は効用水準の数値を変えても財束の順位を変えないため、同じ序数的選好を表す。
ウ：この記述の評価理由は「標準的消費者理論では効用は主に序数的表現として扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「効用関数の変換と所得・予算制約は別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「 v は u と同じ選好順序を表す」という記述に対応する。正の単調変換は効用水準の数値を変えても財束の順位を変えないため、同じ序数的選好を表す。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0071 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：標準

論点：2財が完全代替で、一定の交換比率で効用に寄与する場合の無差別曲線について最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは完全補完財の特徴である。」

ア：対応する記述：所得が増えると無差別曲線の傾き自体が必ず変化する

イ：対応する記述：直線となり、価格比と限界代替率の関係によって端点解になることがある

ウ：対応する記述：L字型となり、必ず両財を固定比率で消費する

エ：対応する記述：原点に対して必ず円形になる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「選好が不変ならMRSは所得変化だけで変わらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「完全代替ではMRSが一定なので無差別曲線は直線で、価格比によって一方の財だけを選ぶ端点解が生じ得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは完全補完財の特徴である。

エ：この記述の評価理由は「標準的な完全代替の無差別曲線ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「L字型となり、必ず両財を固定比率で消費する」という記述に対応する。これは完全補完財の特徴である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0072 消費者行動 > 効用・予算制約 | 難易度：応用

論点：左右の靴のように1対1で使う完全補完財を考える。効用最大化について最も適切な記述はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「完全補完では一方だけ増やしても効用が増えにくく、必要比率を満たす組合せが効率的である。」

ア：対応する記述：限界代替率は全点で一定の有限値になる

イ：対応する記述：価格が変わっても最適な消費比率は必ず無関係に変化する

ウ：対応する記述：無差別曲線は直線で、常に一方の財だけを購入する

エ：対応する記述：無差別曲線はL字型となり、通常は固定比率を満たす折れ曲がり点付近で選択される

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「L字型では折れ曲がりて通常の滑らかなMRSを定義しにくい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「完全補完では技術的な固定比率が選好から決まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「これは完全代替に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。完全補完では一方だけ増やしても効用が増えにくく、必要比率を満たす組合せが効率的である。

総合解説：提示された評価理由は「無差別曲線はL字型となり、通常は固定比率を満たす折れ曲がり点付近で選択される」という記述に対応する。完全補完では一方だけ増やしても効用が増えにくく、必要比率を満たす組合せが効率的である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0073 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：基礎

論点：ある財の価格が10%上昇したとき需要量が20%減少した。需要の価格弾力性の絶対値を単純な比率で求めるといくらか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「変化率を足す指標ではない。」

- ア：対応する記述：30
- イ：対応する記述：2
- ウ：対応する記述：0.5
- エ：対応する記述：10

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。変化率を足す指標ではない。
イ：この記述の評価理由は「価格弾力性の絶対値は $20\% \div 10\% = 2$ で、弾力的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「価格変化率 $\div$ 需要量変化率と逆に計算した値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「10%と20%の差ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「30」という記述に対応する。変化率を足す指標ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0074 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：標準

論点：需要が価格弾力的（弾力性の絶対値が1より大きい）な範囲で、企業が価格を引き下げた場合、他の条件が同じなら売上高 $P \times Q$ は一般にどうなるか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは需要が非弾力的な範囲の典型的な反応である。」

- ア：対応する記述：必ず不変である
- イ：対応する記述：減少する
- ウ：対応する記述：需要量が減るため必ず減少する
- エ：対応する記述：増加する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「売上高が概ね不変なのは単位弾力的な場合である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは需要が非弾力的な範囲の典型的な反応である。
ウ：この記述の評価理由は「価格低下では通常需要量は増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「価格低下率より需要量増加率の方が大きいため、売上高は増える方向になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「減少する」という記述に対応する。これは需要が非弾力的な範囲の典型的な反応である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0075 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：基礎

論点：需要の所得弾力性が負である財の分類として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「所得が増えると需要量が減る財は所得弾力性が負となる。」

- ア：対応する記述：正常財
- イ：対応する記述：公共財
- ウ：対応する記述：劣等財
- エ：対応する記述：完全補完財

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「正常財の所得弾力性は通常正である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「非排除性・非競合性に関する分類であり所得弾力性とは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。所得が増えると需要量が減る財は所得弾力性が負となる。
エ：この記述の評価理由は「完全補完は財同士の組合せに関する分類であり所得弾力性の符号だけでは決まらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「劣等財」という記述に対応する。所得が増えると需要量が減る財は所得弾力性が負となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0076 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：標準

論点：財Aの価格が上昇したとき財Bの需要量が増加し、財B需要の財A価格に対する交差価格弾力性が正であった。財Aと財Bの関係として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「補完財なら一方の価格上昇で他方の需要も減り、交差弾力性は通常負となる。」

- ア：対応する記述：代替財
- イ：対応する記述：劣等財
- ウ：対応する記述：ギッフェン財
- エ：対応する記述：補完財

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「一方の価格上昇で他方の需要が増えるため、互いに代替関係にある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「劣等財は所得変化に対する需要反応で分類する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「自己価格変化に対し需要が同方向に動く特殊な劣等財であり、交差弾力性の正負とは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。補完財なら一方の価格上昇で他方の需要も減り、交差弾力性は通常負となる。

総合解説：提示された評価理由は「補完財」という記述に対応する。補完財なら一方の価格上昇で他方の需要も減り、交差弾力性は通常負となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0077 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：標準

論点：価格が100円から120円へ変化し、需要量が100個から80個へ変化したとき、往路と復路で弾力性の値が異なる問題を抑えるために用いられる代表的な計算方法はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「価格・数量の変化をそれぞれ平均値で割る中点法は、変化方向による基準値の違いを緩和する。」

- ア：対応する記述：中点法による弧弾力性
- イ：対応する記述：限界代替率
- ウ：対応する記述：労働力率
- エ：対応する記述：名目GDPデフレーター

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。価格・数量の変化をそれぞれ平均値で割る中点法は、変化方向による基準値の違いを緩和する。
イ：この記述の評価理由は「消費者の財間交換比率であり、価格変化区間の弾力性計算とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「労働市場指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「物価指数の概念であり需要弾力性の計算方法ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「中点法による弧弾力性」という記述に対応する。価格・数量の変化をそれぞれ平均値で割る中点法は、変化方向による基準値の違いを緩和する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0078 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：基礎

論点：需要曲線が価格100円で需要量0、価格40円で需要量60個となる直線で、市場価格が40円である。供給側を考えず、この価格での消費者余剰はいくらか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「 100×60 は需要曲線の最大価格を全数量に掛けたもので余剰ではない。」

- ア：対応する記述：3,600円
- イ：対応する記述：6,000円
- ウ：対応する記述：2,400円
- エ：対応する記述：1,800円

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「 60×60 は三角形の $1/2$ を掛けていない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 100×60 は需要曲線の最大価格を全数量に掛けたもので余剰ではない。
ウ：この記述の評価理由は「 40×60 は消費支出額であり消費者余剰ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「消費者余剰は需要曲線と価格線の間の三角形で、 $1/2 \times (100 - 40) \times 60 = 1,800$ 円である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「6,000円」という記述に対応する。 100×60 は需要曲線の最大価格を全数量に掛けたもので余剰ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0079 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：標準

論点：コーヒーの価格そのものが低下し、他の条件が同じためコーヒーの購入量が増えた。この変化の表現として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「所得や嗜好、関連財価格など自己価格以外の要因で需要全体が増えるときに右シフトする。」

- ア：対応する記述：需要曲線上の移動である
- イ：対応する記述：供給曲線の左方シフトである
- ウ：対応する記述：需要曲線の右方シフトである
- エ：対応する記述：需要曲線そのものが垂直になる変化である

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「自己価格の変化による需要量の変化は、同じ需要曲線上の移動として表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「問題は需要側の自己価格変化である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。所得や嗜好、関連財価格など自己価格以外の要因で需要全体が増えるときに右シフトする。
エ：この記述の評価理由は「価格低下だけで需要曲線が垂直になるわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「需要曲線の右方シフトである」という記述に対応する。所得や嗜好、関連財価格など自己価格以外の要因で需要全体が増えるときに右シフトする。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0080 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：応用

論点：需要曲線が垂直で、価格が変化しても需要量が変わらないとする。この需要の価格弾力性について最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「価格が変わっても数量変化率が0なので弾力性は0となる。」

- ア：対応する記述：無限大であり、完全弾力的である
- イ：対応する記述：1であり、単位弾力的である
- ウ：対応する記述：負の無限大である
- エ：対応する記述：0であり、完全非弾力的である

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「完全弾力的需要は水平な需要曲線に対応する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「数量が変化しないので1ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「絶対値で見れば0である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。価格が変わっても数量変化率が0なので弾力性は0となる。
総合解説：提示された評価理由は「0であり、完全非弾力的である」という記述に対応する。価格が変わっても数量変化率が0なので弾力性は0となる。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0081 消費者行動 > 需要曲線・弾力性・消費者余剰 | 難易度：応用

論点：ある市場で需要が非常に非弾力的、供給が比較的弾力的であるとする。従量税が課された場合、税負担の帰着として最も起こりやすいものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「供給がより弾力的なら供給側は取引量を調整しやすく、相対的に負担が小さくなりやすい。」

- ア：対応する記述：供給側が必ず全額負担する
- イ：対応する記述：弾力性は税負担の帰着に影響しない
- ウ：対応する記述：需要側（消費者）がより大きな負担を負いやすい
- エ：対応する記述：法的に納税する側が経済的負担も必ず100%負う

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。供給がより弾力的なら供給側は取引量を調整しやすく、相対的に負担が小さくなりやすい。
イ：この記述の評価理由は「需要・供給の相対的な弾力性が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「価格変化に対して逃げにくい、より非弾力的な側が税負担を多く負う傾向がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「法的な納税義務と経済的な税負担の帰着は異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「供給側が必ず全額負担する」という記述に対応する。供給がより弾力的なら供給側は取引量を調整しやすく、相対的に負担が小さくなりやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0082 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：基礎

論点：正常財Xが値下がりした。スルツキー型の考え方で価格効果を代替効果と所得効果に分けると、Xの需要量に対する両効果の向きはどうなるか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「Xが相対的に安くなる代替効果と、実質購買力上昇による正常財の所得効果が同方向に働く。」

- ア：対応する記述：代替効果は減少、所得効果は増加方向
- イ：対応する記述：代替効果も所得効果も財Xの需要を増やす方向に働く
- ウ：対応する記述：代替効果は増加、所得効果は減少方向
- エ：対応する記述：両効果とも需要を減らす方向

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「代替効果は相対的に安くなったXを増やす方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。Xが相対的に安くなる代替効果と、実質購買力上昇による正常財の所得効果が同方向に働く。
ウ：この記述の評価理由は「所得効果が減少方向になるのは劣等財の場合である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「正常財の価格低下では逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「代替効果も所得効果も財Xの需要を増やす方向に働く」という記述に対応する。Xが相対的に安くなる代替効果と、実質購買力上昇による正常財の所得効果が同方向に働く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0083

消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：標準

論点：劣等財Xの価格が下落し、実質購買力が上昇した。この価格変化を代替効果と所得効果に分解した説明として適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「劣等財でも価格効果は存在する。」

- ア：対応する記述：代替効果は需要を増やすが、所得効果は需要を減らす方向に働く
- イ：対応する記述：代替効果は需要を減らし、所得効果は需要を増やす
- ウ：対応する記述：劣等財では価格変化に対する需要反応は存在しない
- エ：対応する記述：代替効果も所得効果も必ず需要を減らす

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「価格低下でXは相対的に安くなるので代替効果はX増加。一方実質所得増加は劣等財Xの需要を減らす方向に働く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「方向が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。劣等財でも価格効果は存在する。
エ：この記述の評価理由は「代替効果は価格低下した財の需要を増やす方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「劣等財では価格変化に対する需要反応は存在しない」という記述に対応する。劣等財でも価格効果は存在する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0084

消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：基礎

論点：ギッフェン財の説明として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「正常財では価格上昇の両効果は需要を減らす方向になる。」

- ア：対応する記述：所得効果がゼロで代替効果だけが存在する財
- イ：対応する記述：強い負の所得効果が代替効果を上回り、価格上昇で需要量が増えることがある劣等財
- ウ：対応する記述：完全代替財の別名である
- エ：対応する記述：正常財であり、価格上昇で所得効果も代替効果も需要を増やす財

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「ギッフェン性には強い負の所得効果が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「ギッフェン財では所得効果が通常の代替効果を凌駕し、自己価格と需要量が同方向に動く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「完全代替性とギッフェン性は別の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。正常財では価格上昇の両効果は需要を減らす方向になる。
総合解説：提示された評価理由は「正常財であり、価格上昇で所得効果も代替効果も需要を増やす財」という記述に対応する。正常財では価格上昇の両効果は需要を減らす方向になる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0085 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：標準

論点：価格変化の代替効果を測るときのヒックス補償とスルツキー補償の違いとして最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「両者は補償の基準が異なるが、価格効果を所得効果と代替効果に分ける方法である。」

- ア：対応する記述：ヒックスは元の効用水準を維持するよう所得を補償し、スルツキーは元の消費束を購入可能にするよう所得を補償する
- イ：対応する記述：ヒックスは元の消費束を購入可能にし、スルツキーは元の効用を維持する
- ウ：対応する記述：両者は完全に同じ補償方法で、常に同じ数値になる
- エ：対応する記述：どちらも所得効果を考えず、価格変化前後の需要量だけを比較する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。両者は補償の基準が異なるが、価格効果を所得効果と代替効果に分ける方法である。
イ：この記述の評価理由は「補償基準が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「小さな変化では近くなるが、一般には補償基準が異なるため数値も異なり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「両者は価格効果を二つに分解するための手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「ヒックスは元の効用水準を維持するよう所得を補償し、スルツキーは元の消費束を購入可能にするよう所得を補償する」という記述に対応する。両者は補償の基準が異なるが、価格効果を所得効果と代替効果に分ける方法である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0086 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：標準

論点：財Xの価格が低下し、財Yの価格が不変である。効用を一定に保つ補償を行って純粋な代替効果だけを見ると、通常、財Xの需要はどうなるか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「代替効果は相対的に安くなった財を増やす方向である。」
ア：対応する記述：所得弾力性が負なら必ずゼロになる
イ：対応する記述：必ず減少する
ウ：対応する記述：財Xが正常財のときだけ増加し、劣等財では減少する
エ：対応する記述：増加するか、少なくとも減少しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「代替効果の方向は正常財・劣等財の区別とは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。代替効果は相対的に安くなった財を増やす方向である。
ウ：この記述の評価理由は「正常・劣等の違いは主に所得効果の符号に関係する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「XがYに比べ相対的に安くなるため、補償需要はXへ代替する方向に動く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「必ず減少する」という記述に対応する。代替効果は相対的に安くなった財を増やす方向である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0087 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：基礎

論点：価格変化による実質所得の上昇に対して、ある財の需要量が減少するという所得効果が観察された。この財について最も適切な分類はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。
「所得が増えると需要が減る財は劣等財である。」

- ア：対応する記述：正常財
- イ：対応する記述：必ず完全補完財
- ウ：対応する記述：劣等財
- エ：対応する記述：必ずギッフェン財

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「正常財は所得増加で需要が増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「補完性は所得効果の符号からは決まらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。所得が増えると需要が減る財は劣等財である。
エ：この記述の評価理由は「劣等財でも所得効果が代替効果を上回らなければギッフェン財ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「劣等財」という記述に対応する。所得が増えると需要が減る財は劣等財である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0088 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：標準

論点：マーシャル需要（通常需要）とヒックス需要（補償需要）の違いとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「消費者の支出最小化問題で重要な概念である。」

- ア：対応する記述：ヒックス需要は効用水準を一定に保ちながら支出を最小化する需要で、価格変化の純粋な代替効果を分析するのに用いられる
- イ：対応する記述：マーシャル需要は効用を固定し、ヒックス需要は所得を固定する
- ウ：対応する記述：両者はどの価格・所得でも必ず完全に一致する
- エ：対応する記述：ヒックス需要は企業の費用最小化だけに使われ、消費者理論では使わない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「通常需要は所得を所与として効用最大化するのに対し、補償需要は効用を所与として支出最小化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「定義が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「一般には所得効果の存在により異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。消費者の支出最小化問題で重要な概念である。

総合解説：提示された評価理由は「ヒックス需要は企業の費用最小化だけに使われ、消費者理論では使わない」という記述に対応する。消費者の支出最小化問題で重要な概念である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0089 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：標準

論点：余暇を正常財とする労働供給モデルで実質賃金が上昇した。余暇選択に対する代替効果と所得効果の説明として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「余暇が正常財なら所得効果は余暇増、労働減の方向である。」

- ア：対応する記述：両効果とも必ず労働を増やす
- イ：対応する記述：両効果とも必ず労働を減らす
- ウ：対応する記述：所得効果と代替効果は労働供給には適用できない
- エ：対応する記述：代替効果は余暇を減らして労働を増やす方向、所得効果は余暇を増やして労働を減らす方向に働く

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。余暇が正常財なら所得効果は余暇増、労働減の方向である。
イ：この記述の評価理由は「代替効果は余暇の相対価格上昇により労働増の方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「余暇と消費の選択として同じ考え方を適用できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「賃金上昇で余暇の機会費用が上がるため代替効果は労働増。一方実質所得増で正常財の余暇需要が増えるため所得効果は労働減となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「両効果とも必ず労働を増やす」という記述に対応する。余暇が正常財なら所得効果は余暇増、労働減の方向である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0090 消費者行動 > 所得効果・代替効果 | 難易度：応用

論点：財Xの価格低下により、補償後の代替効果でX需要が4単位増え、所得効果でさらに2単位増えた。このとき通常需要で観察される価格効果は何単位か。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「価格効果は代替効果＋所得効果なので、 $4 + 2 = 6$ 単位増加である。」

- ア：対応する記述：8単位増加
- イ：対応する記述：6単位増加
- ウ：対応する記述：2単位増加
- エ：対応する記述：4単位増加

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「 4×2 と掛け合わせる関係ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。価格効果は代替効果＋所得効果なので、 $4 + 2 = 6$ 単位増加である。
ウ：この記述の評価理由は「これは所得効果だけであり代替効果を含まない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これは代替効果だけである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「6単位増加」という記述に対応する。価格効果は代替効果＋所得効果なので、 $4 + 2 = 6$ 単位増加である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0091 企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：基礎

論点：労働投入量を増やしたときの限界生産物（MP）の説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは平均生産物（AP）の説明である。」

- ア：対応する記述：固定投入量を1単位増やしたときの平均費用の変化である
- イ：対応する記述：労働を1単位追加したときに総生産量がどれだけ増えるかを示す
- ウ：対応する記述：総生産量を労働投入量で割った値である
- エ：対応する記述：総費用を生産量で割った値である

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「限界生産物は生産量の変化を扱う概念で、平均費用の変化ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「限界生産物は、他の投入を一定としたときに労働など可変投入を1単位追加した際の産出量の増分である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは平均生産物（AP）の説明である。
- エ：この記述の評価理由は「これは平均総費用（ATC）の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「総生産量を労働投入量で割った値である」という記述に対応する。これは平均生産物（AP）の説明である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0092 企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：基礎

論点：短期に資本設備を固定し、労働投入だけを増やしていくとする。限界生産逓減が生じている状態として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「固定要素がある短期では、可変要素を追加しても追加的産出量が次第に小さくなる場合がある。」

- ア：対応する記述：労働を増やすたびに総生産量そのものが必ず減少する
- イ：対応する記述：平均生産物と限界生産物が常に同じ値になる
- ウ：対応する記述：固定費が生産量に比例して増加する
- エ：対応する記述：労働を追加したときの総生産量の増分が次第に小さくなる

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「限界生産逓減は限界生産物が低下することであり、総生産量が直ちに減ることを意味しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「APとMPは一般に異なり、MPがAPを上回るとAPは上昇し、下回るとAPは低下する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「固定費は短期には生産量にかかわらず一定とされる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。固定要素がある短期では、可変要素を追加しても追加的産出量が次第に小さくなる場合がある。

総合解説：提示された評価理由は「労働を追加したときの総生産量の増分が次第に小さくなる」という記述に対応する。固定要素がある短期では、可変要素を追加しても追加的産出量が次第に小さくなる場合がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0093

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：標準

論点：短期の費用概念に関する記述として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「平均固定費 $AFC = FC/Q$ なので、生産量 Q が増えるほど低下する。」

- ア：対応する記述：平均固定費は生産量にかかわらず一定である
イ：対応する記述：総費用は固定費と可変費の合計として表される
ウ：対応する記述：固定費は生産量が増えるほど必ず同額ずつ増える
エ：対応する記述：可変費は生産量がゼロでも必ず正の値をとる

答え・解説

正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。平均固定費 $AFC = FC/Q$ なので、生産量 Q が増えるほど低下する。
イ：この記述の評価理由は「短期総費用 TC は固定費 FC と可変費 VC の和、 $TC = FC + VC$ で表される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「固定費は短期には生産量に依存しない費用である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「可変費は通常、生産量ゼロならゼロと扱う基本モデルが用いられる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「平均固定費は生産量にかかわらず一定である」という記述に対応する。平均固定費 $AFC = FC/Q$ なので、生産量 Q が増えるほど低下する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0094

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：標準

論点：生産量を Q 、固定費を FC 、可変費を VC とすると、平均総費用（ ATC ）の関係として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは総費用 TC の関係であり、平均費用ではない。」

- ア：対応する記述：平均固定費から平均可変費を差し引く式： $ATC = FC/Q - VC/Q$
イ：対応する記述：総費用を数量で割らずに合計する式： $ATC = FC + VC$
ウ：対応する記述：平均可変費だけを用いる式： $ATC = VC/Q$
エ：対応する記述：平均固定費と平均可変費を合計する式： $ATC = FC/Q + VC/Q$

答え・解説

正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「平均総費用は平均固定費と平均可変費の差ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは総費用 TC の関係であり、平均費用ではない。
ウ：この記述の評価理由は「これは平均可変費 AVC だけを表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「 $ATC = TC/Q = (FC + VC)/Q = AFC + AVC$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「総費用を数量で割らずに合計する式： $ATC = FC + VC$ 」という記述に対応する。これは総費用 TC の関係であり、平均費用ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0095

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：標準

論点：限界費用（MC）と平均総費用（ATC）の関係について最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「限界値が平均値を下回ると平均は低下し、上回ると平均は上昇するため、MCはATCの最小点でATCと交わる。」

ア：対応する記述：ATCの最小点ではMCは必ずゼロである

イ：対応する記述：MCは固定費の大きさだけで決まる

ウ：対応する記述：MC曲線はATC曲線の最小点を通る

エ：対応する記述：MCがATCを下回っているときATCは必ず上昇する

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ATC最小点では $MC = ATC$ であり、通常ゼロではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「MCは追加生産に伴う可変的な費用変化に関係し、固定費はMCに影響しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。限界値が平均値を下回ると平均は低下し、上回ると平均は上昇するため、MCはATCの最小点でATCと交わる。

エ：この記述の評価理由は「 $MC < ATC$ なら追加単位の費用が平均を引き下げるのでATCは低下する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「MC曲線はATC曲線の最小点を通る」という記述に対応する。限界値が平均値を下回ると平均は低下し、上回ると平均は上昇するため、MCはATCの最小点でATCと交わる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0096

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：標準

論点：ある企業の総費用が、生産量10単位のととき1,000万円、11単位のととき1,080万円である。10単位から11単位へ増産する限界費用として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「1,080万円を11単位で割った値に近く、平均総費用であって限界費用ではない。」

ア：対応する記述：1,040万円

イ：対応する記述：180万円

ウ：対応する記述：80万円

エ：対応する記述：約98.2万円

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「これは2つの総費用の平均であり、限界費用ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「総費用差を誤って計算している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「限界費用は追加1単位に伴う総費用の増分なので、 $1,080 - 1,000 = 80$ 万円である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。1,080万円を11単位で割った値に近く、平均総費用であって限界費用ではない。

総合解説：提示された評価理由は「約98.2万円」という記述に対応する。1,080万円を11単位で割った値に近く、平均総費用であって限界費用ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0097

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：応用

論点：長期平均費用（LRAC）が生産量の増加に伴って低下している範囲について、最も適切な説明はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「長期に投入要素を調整できるとき、生産規模拡大により単位当たり費用が低下する状態を規模の経済という。」

ア：対応する記述：規模の経済が生じている

イ：対応する記述：規模の不経済が生じている

ウ：対応する記述：限界生産逓減が必ず生じていない

エ：対応する記述：短期固定費が必ずゼロである

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。長期に投入要素を調整できるとき、生産規模拡大により単位当たり費用が低下する状態を規模の経済という。

イ：この記述の評価理由は「規模の不経済なら長期平均費用は生産規模の拡大とともに上昇する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「短期の限界生産逓減と長期の規模の経済は異なる概念で、両者は両立し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「長期では固定投入がないというモデル上の扱いと、LRAC低下の理由とは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「規模の経済が生じている」という記述に対応する。長期に投入要素を調整できるとき、生産規模拡大により単位当たり費用が低下する状態を規模の経済という。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0098

企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：応用

論点：労働Lと資本Kを用いて一定量を生産する企業が、労働賃金率をw、資本レンタル価格をrとして費用を最小化している。内点解で最も適切な条件はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「次元が異なり、通常の費用最小化条件ではない。」

ア：対応する記述：wとrが常に等しい

イ：対応する記述： $MPL/w = r/MPK$

ウ：対応する記述： $MPL/w = MPK/r$

エ：対応する記述：限界生産物MPLとMPKが常に等しい

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「要素価格は市場で与えられ、企業の費用最小化のために等しくなる必要はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。次元が異なり、通常の費用最小化条件ではない。

ウ：この記述の評価理由は「各投入1円当たりの限界生産物が等しくなる $MPL/w = MPK/r$ 、同値に $MRTS = w/r$ が内点解の条件である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「投入価格が異なる場合、限界生産物そのものを等しくすることは費用最小化条件ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「 $MPL/w = r/MPK$ 」という記述に対応する。次元が異なり、通常の費用最小化条件ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0099 企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：標準

論点：生産関数 $Q = L^{0.6} K^{0.4}$ について、労働 L と資本 K をともに2倍にしたときの産出量の変化として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「4倍になるのは投入の倍増に対して規模に関する収穫逓増が強い場合で、この関数には当てはまらない。」

- ア：対応する記述：2倍になる
- イ：対応する記述：変化しない
- ウ：対応する記述：4倍になる
- エ：対応する記述：2の0.6乗倍になる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「指数の和が $0.6 + 0.4 = 1$ なので一次同次であり、両投入を2倍にすると産出量も2倍になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「投入を増やせばこの生産関数では産出量も増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。4倍になるのは投入の倍増に対して規模に関する収穫逓増が強い場合で、この関数には当てはまらない。
エ：この記述の評価理由は「資本投入の変化を無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「4倍になる」という記述に対応する。4倍になるのは投入の倍増に対して規模に関する収穫逓増が強い場合で、この関数には当てはまらない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0100 企業行動・市場構造 > 生産関数・費用曲線 | 難易度：基礎

論点：ある企業が市場調査に500万円を既に支払い、返金も転用もできない。この後、新製品を追加生産するか判断する際のこの500万円の扱いとして最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「埋没費用は今後の選択によって変えられないため、合理的な限界判断では除外する。」

- ア：対応する記述：平均可変費の一部として必ず扱う
- イ：対応する記述：追加生産するたびに500万円を限界費用へ加える
- ウ：対応する記述：固定費であるため、追加生産を1単位でも行う限り全額を回収できる
- エ：対応する記述：既に回収不能な埋没費用なので、将来の追加生産判断では原則として考慮しない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「回収不能な過去支出は通常、将来の可変費ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「過去に既に支払い回収不能な費用は追加1単位の費用ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「固定費であることと回収可能であることは同義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。埋没費用は今後の選択によって変えられないため、合理的な限界判断では除外する。
総合解説：提示された評価理由は「既に回収不能な埋没費用なので、将来の追加生産判断では原則として考慮しない」という記述に対応する。埋没費用は今後の選択によって変えられないため、合理的な限界判断では除外する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0101 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：基礎

論点：完全競争市場における個別企業の需要曲線について最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「市場全体の需要曲線は右下がりでも、価格受容者である個別企業には市場価格で水平な需要が与えられる。」

ア：対応する記述：市場需要曲線と同じ右下がりである

イ：対応する記述：市場価格の水準で水平であり、 $P = AR = MR$ となる

ウ：対応する記述：企業の固定費の大きさによって傾きが決まる

エ：対応する記述：企業が価格を上げるほど需要量が必ず増える

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。市場全体の需要曲線は右下がりでも、価格受容者である個別企業には市場価格で水平な需要が与えられる。

イ：この記述の評価理由は「完全競争企業は市場価格を所与とし、追加1単位の販売収入も価格に等しいため $P = AR = MR$ となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「個別企業の需要曲線の形は固定費ではなく市場構造に依存する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「価格を市場価格より上げれば買い手は他社から購入できるため需要は失われる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「市場需要曲線と同じ右下がりである」という記述に対応する。市場全体の需要曲線は右下がりでも、価格受容者である個別企業には市場価格で水平な需要が与えられる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0102 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：標準

論点：一般に企業が内点で利潤を最大化する産出量の条件として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「追加1単位の収入と費用が等しくなる点が候補で、MCがMRを下から上に横切ることが最大化の二階条件に対応する。」

ア：対応する記述：総収入＝総費用が常に必要である

イ：対応する記述：限界収入＝限界費用となり、その近傍で限界費用が限界収入を下から上へ横切る

ウ：対応する記述：平均収入＝平均固定費

エ：対応する記述：平均総費用＝平均可変費

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「 $TR = TC$ は経済利潤ゼロの条件であり、利潤最大化時に正の利潤や損失もあり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。追加1単位の収入と費用が等しくなる点が候補で、MCがMRを下から上に横切ることが最大化の二階条件に対応する。

ウ：この記述の評価理由は「平均収入と平均固定費の一致は利潤最大化条件ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「 $ATC = AVC$ なら $AFC = 0$ を意味するだけで、一般的な最適化条件ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「限界収入＝限界費用となり、その近傍で限界費用が限界収入を下から上へ横切る」という記述に対応する。追加1単位の収入と費用が等しくなる点が候補で、MCがMRを下から上に横切ることが最大化の二階条件に対応する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0103 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：基礎

論点：完全競争企業が $P = MC$ となる産出量を選び、その産出量で市場価格 P が平均総費用 ATC を上回っている。企業の短期的な状態として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「正の経済利潤がある状況で生産停止する理由はない。」

- ア：対応する記述：必ず操業停止すべきである
- イ：対応する記述：正の経済利潤を得ている
- ウ：対応する記述：固定費だけが赤字であるため生産量をゼロにする
- エ：対応する記述：経済利潤は必ずゼロである

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「 $P > ATC$ なら少なくとも $P > AVC$ でもあり、操業停止条件には当たらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「利潤は $(P - ATC) \times Q$ で表せるので、 $P > ATC$ なら正の経済利潤となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。正の経済利潤がある状況で生産停止する理由はない。
エ：この記述の評価理由は「経済利潤ゼロは $P = ATC$ のときである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「固定費だけが赤字であるため生産量をゼロにする」という記述に対応する。正の経済利潤がある状況で生産停止する理由はない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0104 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：標準

論点：完全競争企業について、利潤最大化産出量で $AVC < P < ATC$ である。短期の意思決定として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「 P が AVC を上回るなら売上で可変費を賄い固定費の一部も回収できるため、停止より損失が小さい。」

- ア：対応する記述：操業を継続し、可変費と固定費の一部を回収する方が損失を小さくできる
- イ：対応する記述：価格を ATC まで自由に引き上げる
- ウ：対応する記述：固定費を限界費用に加えて産出量を決める
- エ：対応する記述：損失があるので必ず直ちに操業停止する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「短期では固定費を支払う必要があるため、 $P > AVC$ なら操業継続が損失最小化になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「完全競争企業は価格受容者であり、市場価格を自由に設定できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「固定費は追加生産の限界費用を変えない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 P が AVC を上回るなら売上で可変費を賄い固定費の一部も回収できるため、停止より損失が小さい。
総合解説：提示された評価理由は「損失があるので必ず直ちに操業停止する」という記述に対応する。 P が AVC を上回るなら売上で可変費を賄い固定費の一部も回収できるため、停止より損失が小さい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0105 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：標準

論点：完全競争企業の短期操業停止について最も適切な記述はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「 $P < AVC$ では売上が可変費すら賄えず、生産すると固定費以上の損失が生じるため停止が合理的である。」

ア：対応する記述：利潤最大化候補の産出量で $P < AVC$ なら、短期には生産を停止する方が損失を小さくできる

イ：対応する記述：固定費が正なら必ず操業を継続する

ウ：対応する記述： $P < ATC$ なら必ず操業停止する

エ：対応する記述： $P = MC$ なら価格水準に関係なく必ず操業する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $P < AVC$ では売上が可変費すら賄えず、生産すると固定費以上の損失が生じるため停止が合理的である。

イ：この記述の評価理由は「固定費は停止しても発生するため、固定費の存在だけで操業継続は決まらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「 $AVC < P < ATC$ では損失でも操業継続が合理的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「 $P = MC$ は内点候補だが、可変費を回収できない場合には停止が優る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「利潤最大化候補の産出量で $P < AVC$ なら、短期には生産を停止する方が損失を小さくできる」という記述に対応する。 $P < AVC$ では売上が可変費すら賄えず、生産すると固定費以上の損失が生じるため停止が合理的である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0106 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：応用

論点：同質的な企業からなる完全競争市場で自由な参入・退出が可能である。需要などが一定の長期均衡について最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「経済利潤ゼロには正常利潤（機会費用）が含まれ、操業停止を意味しない。」

ア：対応する記述：市場価格は限界費用より常に高い

イ：対応する記述：各企業は必ず会計上の利益をゼロにするため生産を停止する

ウ：対応する記述：各企業は平均総費用の最大点で生産する

エ：対応する記述：経済利潤が参入・退出で調整され、典型的には $P = MC = \text{最小}ATC$ となる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「長期完全競争均衡では利潤最大化から $P = MC$ が成立する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。経済利潤ゼロには正常利潤（機会費用）が含まれ、操業停止を意味しない。

ウ：この記述の評価理由は「長期均衡は典型的に ATC 最小点で実現し、最大点ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「正の経済利潤は参入を、損失は退出を促し、長期には経済利潤ゼロへ調整される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「各企業は必ず会計上の利益をゼロにするため生産を停止する」という記述に対応する。経済利潤ゼロには正常利潤（機会費用）が含まれ、操業停止を意味しない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0107 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：応用

論点：完全競争企業の短期供給曲線として最も適切なものはどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「企業は $P=MC$ で数量を選ぶが、 P が AVC を下回れば停止するため、 AVC 最小点以上の MC 曲線が短期供給曲線になる。」

- ア：対応する記述：限界収入曲線そのもの
- イ：対応する記述：平均固定費曲線の右上がり部分
- ウ：対応する記述：限界費用曲線のうち平均可変費曲線の最小点以上に対応する部分
- エ：対応する記述：平均総費用曲線全体

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「 $MR=P$ は水平な価格線で、価格ごとの最適供給量を結んだものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「 AFC は通常右下がりであり、供給曲線ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。企業は $P=MC$ で数量を選ぶが、 P が AVC を下回れば停止するため、 AVC 最小点以上の MC 曲線が短期供給曲線になる。
エ：この記述の評価理由は「 ATC は利潤の大きさを判断するが、供給数量を直接与える曲線ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「限界費用曲線のうち平均可変費曲線の最小点以上に対応する部分」という記述に対応する。企業は $P=MC$ で数量を選ぶが、 P が AVC を下回れば停止するため、 AVC 最小点以上の MC 曲線が短期供給曲線になる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0108 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：標準

論点：完全競争企業に生産物1単位当たり一定額の従量税が課された。他の条件が同じとき、個別企業の短期供給について最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「企業が負担する税は生産の増分費用に含まれる。」

- ア：対応する記述：1単位当たり税額だけ限界費用が上昇し、一般に各価格での供給量は減少する
- イ：対応する記述：平均固定費だけが上昇し供給量は必ず増える
- ウ：対応する記述：固定費だけが増えるため限界費用曲線は変化しない
- エ：対応する記述：税は企業の費用ではないため供給に影響しない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「1単位追加するたび税負担が増えるので MC が税額分上方へ移動し、同一価格では最適数量が減る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「従量税は AFC ではなく可変費・限界費用に影響する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「従量税は生産量に比例する可変的費用であり、固定費だけを増やすものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。企業が負担する税は生産の増分費用に含まれる。
総合解説：提示された評価理由は「税は企業の費用ではないため供給に影響しない」という記述に対応する。企業が負担する税は生産の増分費用に含まれる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0109 企業行動・市場構造 > 完全競争・利潤最大化 | 難易度：基礎

論点：完全競争企業が市場価格200円で100単位を販売している。この産出量における平均総費用が160円であるとき、経済利潤はいくらか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは総費用160×100であり、利潤ではない。」

- ア：対応する記述：16,000円
- イ：対応する記述：20,000円
- ウ：対応する記述：4,000円
- エ：対応する記述：4,000円の損失

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは総費用160×100であり、利潤ではない。
イ：この記述の評価理由は「これは総収入200×100であり、費用を差し引いていない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「利潤=(P-ATC)×Q=(200-160)×100=4,000円である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「価格がATCを上回っているため損失ではなく正の利潤である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「16,000円」という記述に対応する。これは総費用160×100であり、利潤ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0110 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：基礎

論点：右下がりの市場需要曲線に直面する単一価格の独占企業について、正の販売量の範囲で一般に成立する関係として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「追加販売には価格引下げが既存販売分にも及ぶため、独占企業のMRは需要曲線上の価格より低くなる。」

- ア：対応する記述：限界収入MRと価格Pは常に等しい
- イ：対応する記述：限界収入MRは価格Pより小さい
- ウ：対応する記述：限界収入MRは固定費だけで決まる
- エ：対応する記述：限界収入MRは常に価格Pより大きい

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「P=MRは価格受容者である完全競争企業の関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。追加販売には価格引下げが既存販売分にも及ぶため、独占企業のMRは需要曲線上の価格より低くなる。
ウ：この記述の評価理由は「MRは需要と価格設定に関係する収入概念で、固定費では決まらない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「右下がり需要では追加販売のための値下げ効果があるためMR>Pにはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「限界収入MRは価格Pより小さい」という記述に対応する。追加販売には価格引下げが既存販売分にも及ぶため、独占企業のMRは需要曲線上の価格より低くなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0111 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：標準

論点：単一価格の独占企業が利潤を最大化するときの基本的な手順として最も適切なものはどれか。
。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「独占では通常 $P > MC$ となり得るため、 $P = MC$ を直接用いるのは完全競争の考え方に近い。」

- ア：対応する記述： $MR = MC$ となる数量を選び、その数量に対応する需要曲線上の価格を設定する
イ：対応する記述：市場価格を所与として $P = MR = MC$ となる数量だけを選ぶ
ウ：対応する記述：需要曲線上で $P = MC$ となる点を直接選び、そこからMRを決める
エ：対応する記述：ATCが最小となる数量を必ず選び、その価格をMCに等しくする

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「独占の数量は $MR = MC$ で決め、販売価格はその数量を売れる需要曲線上の価格として求める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「独占企業は市場価格を所与とする価格受容者ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。独占では通常 $P > MC$ となり得るため、 $P = MC$ を直接用いるのは完全競争の考え方に近い。
エ：この記述の評価理由は「ATC最小化は費用効率の条件であって、独占の利潤最大化条件そのものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「需要曲線上で $P = MC$ となる点を直接選び、そこからMRを決める」という記述に対応する。独占では通常 $P > MC$ となり得るため、 $P = MC$ を直接用いるのは完全競争の考え方に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0112 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：標準

論点：同じ需要・費用条件のもとで、単一価格独占を完全競争と比較したときの典型的な結果として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「独占は $MR = MC$ で数量を制限するため、 $P > MC$ となる範囲が生じ、相互に利益のある取引が実現しない部分が死荷重となる。」

- ア：対応する記述：独占では限界費用が常にゼロになる
イ：対応する記述：独占の方が産出量は多く価格は低い
ウ：対応する記述：独占では必ず消費者余剰が最大化される
エ：対応する記述：独占の方が産出量は少なく価格は高くなり、死荷重が生じ得る

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「市場構造が限界費用を自動的にゼロにするわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「通常は独占企業が供給を絞るため、完全競争より数量は少なく価格は高くなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「独占価格は消費者余剰の一部を企業利潤へ移し、さらに取引減少による死荷重を生じさせ得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。独占は $MR = MC$ で数量を制限するため、 $P > MC$ となる範囲が生じ、相互に利益のある取引が実現しない部分が死荷重となる。

総合解説：提示された評価理由は「独占の方が産出量は少なく価格は高くなり、死荷重が生じ得る」という記述に対応する。独占は $MR = MC$ で数量を制限するため、 $P > MC$ となる範囲が生じ、相互に利益のある取引が実現しない部分が死荷重となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0113 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：応用

論点：独占企業が異なる顧客群に異なる価格を設定する価格差別について、成立条件として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「転売が自由なら価格差は裁定によって崩れやすい。」

ア：対応する記述：顧客群を識別できなくても転売が完全に自由なら成立しやすい

イ：対応する記述：企業が完全競争市場の価格受容者でなければならない

ウ：対応する記述：顧客群をある程度識別でき、低価格で購入した者から高価格市場への転売を制限できることが重要である

エ：対応する記述：すべての顧客の需要の価格弾力性が完全に同一でなければならない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。転売が自由なら価格差は裁定によって崩れやすい。

イ：この記述の評価理由は「価格差別には価格設定力が必要であり、完全競争では困難である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「市場の分離と裁定の制限は価格差別を持続させる重要条件である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「弾力性が異なる顧客群ほど異なる価格設定の余地がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「顧客群を識別できなくても転売が完全に自由なら成立しやすい」という記述に対応する。転売が自由なら価格差は裁定によって崩れやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0114 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：標準

論点：寡占市場の基本モデルに関する組合せとして最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「戦略変数の対応が逆である。」

ア：対応する記述：クールノー競争—各企業が数量を戦略変数として選ぶ / ベルトラン競争—各企業が価格を戦略変数として選ぶ

イ：対応する記述：クールノー競争—価格だけを選ぶ / ベルトラン競争—数量だけを選ぶ

ウ：対応する記述：クールノー競争—広告だけを選ぶ / ベルトラン競争—設備投資だけを選ぶ

エ：対応する記述：両モデルとも企業は市場価格を所与として行動する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「クールノーは数量競争、ベルトランは価格競争を代表する寡占モデルである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。戦略変数の対応が逆である。

ウ：この記述の評価理由は「広告や設備投資を扱う戦略モデルもあるが、クールノー・ベルトランの標準的定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「寡占企業は相互依存を考慮する戦略主体であり、完全競争の価格受容者とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「クールノー競争—価格だけを選ぶ / ベルトラン競争—数量だけを選ぶ」という記述に対応する。戦略変数の対応が逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0115 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：基礎

論点：ゲーム理論におけるナッシュ均衡の説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ナッシュ均衡では、他者の戦略に対して各自の戦略が最適反応になっている。」

- ア：対応する記述：社会全体の利得の合計が必ず最大になる戦略の組
- イ：対応する記述：全プレイヤーの利得が必ず同じになる戦略の組
- ウ：対応する記述：他のプレイヤーの戦略を所与としたとき、各プレイヤーが一方的に戦略を変更しても自分の利得を高められない戦略の組
- エ：対応する記述：各プレイヤーが同じ戦略を選ぶ戦略の組

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ナッシュ均衡は社会的最適と一致しないことがあり、囚人のジレンマが典型例である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「利得が等しい必要はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ナッシュ均衡では、他者の戦略に対して各自の戦略が最適反応になっている。
エ：この記述の評価理由は「均衡で異なる戦略を選ぶゲームも多数存在する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「他のプレイヤーの戦略を所与としたとき、各プレイヤーが一方的に戦略を変更しても自分の利得を高められない戦略の組」という記述に対応する。ナッシュ均衡では、他者の戦略に対して各自の戦略が最適反応になっている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0116 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：応用

論点：2企業が「高価格維持」か「値下げ」を選ぶゲームで、相手がどちらを選んでも各企業にとって「値下げ」の利得が「高価格維持」より大きい。一方、両社が高価格を維持した場合の各社利得は、両社が値下げした場合より大きい。このゲームの説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「相手の行動に関係なく値下げの方が有利なので、高価格維持は支配戦略ではない。」

- ア：対応する記述：値下げが各社の支配戦略で、両社値下げがナッシュ均衡となるが、両社高価格より双方の利得が低い
- イ：対応する記述：ナッシュ均衡は存在しない
- ウ：対応する記述：両社高価格だけが支配戦略均衡である
- エ：対応する記述：高価格維持が各社の支配戦略である

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「これは囚人のジレンマ型で、個別合理性が双方にとってより低い均衡結果をもたらす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「有限の通常形ゲームでもナッシュ均衡が存在し得て、本問では両社値下げが均衡である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「高価格維持は相手が何をしても最適ではないため支配戦略ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。相手の行動に関係なく値下げの方が有利なので、高価格維持は支配戦略ではない。
総合解説：提示された評価理由は「高価格維持が各社の支配戦略である」という記述に対応する。相手の行動に関係なく値下げの方が有利なので、高価格維持は支配戦略ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0117 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：標準

論点：同じ寡占企業同士が長期にわたり繰り返し競争する場合について、最も適切な記述はどれか。
。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「将来を十分重視する場合、トリガー戦略などが逸脱を抑制し、協調を自己拘束的にする可能性がある。」

ア：対応する記述：将来の利益を重視し、逸脱に対する将来の報復が可能なら、協調的行動が維持される余地が大きくなる

イ：対応する記述：繰り返しゲームでは各企業の利得を考慮する必要がなくなる

ウ：対応する記述：将来の取引があるほど協調は必ず不可能になる

エ：対応する記述：1回限りのゲームと繰り返しゲームの均衡は必ず完全に同じである

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。将来を十分重視する場合、トリガー戦略などが逸脱を抑制し、協調を自己拘束的にする可能性がある。

イ：この記述の評価理由は「各企業は各期と将来の利得を考慮して戦略を選ぶ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「将来関係は、現在の逸脱利益と将来の損失を比較させるため協調を支える場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「繰り返しによって将来の戦略的反応が生じるため、1回限りと結果が異なり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「将来の利益を重視し、逸脱に対する将来の報復が可能なら、協調的行動が維持される余地が大きくなる」という記述に対応する。将来を十分重視する場合、トリガー戦略などが逸脱を抑制し、協調を自己拘束的にする可能性がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0118 企業行動・市場構造 > 独占・寡占・ゲーム理論 | 難易度：標準

論点：ある市場の企業シェアが50%、30%、20%の3社である。HHIを各社シェア（%）の二乗和で計算すると、最も適切な値はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「10,000は1社独占（100²）の場合の値である。」

ア：対応する記述：100

イ：対応する記述：10,000

ウ：対応する記述：3,000

エ：対応する記述：3,800

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「単純なシェア合計であり、HHIではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。10,000は1社独占（100²）の場合の値である。

ウ：この記述の評価理由は「 $50^2 + 30^2 + 20^2 = 2,500 + 900 + 400 = 3,800$ なので3,000ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「 $HHI = 50^2 + 30^2 + 20^2 = 3,800$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「10,000」という記述に対応する。10,000は1社独占（100²）の場合の値である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0119 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：基礎

論点：生産活動が周辺住民に汚染被害を与えるが、その損害を企業が負担していない。負の生産外部性があるときの関係として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。
「外部費用を企業が負担しない状況では通常 $MSC > MPC$ である。」

- ア：対応する記述：社会的最適生産量は市場均衡生産量より必ず多くなる
- イ：対応する記述：外部費用は市場価格に必ず完全反映される
- ウ：対応する記述：私的限界費用は社会的限界費用より必ず大きい
- エ：対応する記述：社会的限界費用は私的限界費用に外部限界費用を加えたものになる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「負の外部性では市場が過剰生産しやすく、社会的最適量は市場量より少なくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「市場価格に外部費用が反映されないことが市場の失敗の原因となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。外部費用を企業が負担しない状況では通常 $MSC > MPC$ である。
エ：この記述の評価理由は「 $MSC = MPC +$ 外部限界費用と考えるため、負の外部性では社会的費用が私的費用を上回る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「私的限界費用は社会的限界費用より必ず大きい」という記述に対応する。外部費用を企業が負担しない状況では通常 $MSC > MPC$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0120 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：負の生産外部性に対するピグー税の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「適切な税によって MPC に外部費用を加えた形に近づけ、私的最適を社会的最適へ誘導する。」

- ア：対応する記述：生産量を必ずゼロにする税率を設定する
- イ：対応する記述：消費者余剰を企業へ移転することだけを目的とする
- ウ：対応する記述：外部費用と無関係に固定額の補助金を与える
- エ：対応する記述：社会的最適量における限界外部費用に対応する税を課し、企業の私的意思決定に社会的費用を反映させる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「社会的最適量が通常ゼロとは限らず、汚染を完全排除することが常に最適ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「目的は外部不経済の内部化と資源配分改善である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「負の外部性への基本的な正手段は補助金ではなく、外部費用を反映する課税などである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。適切な税によって MPC に外部費用を加えた形に近づけ、私的最適を社会的最適へ誘導する。
総合解説：提示された評価理由は「社会的最適量における限界外部費用に対応する税を課し、企業の私的意思決定に社会的費用を反映させる」という記述に対応する。適切な税によって MPC に外部費用を加えた形に近づけ、私的最適を社会的最適へ誘導する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0121 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：予防接種や基礎研究のように、当事者以外にも便益が及ぶ正の外部性がある場合の一般的な説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「正の外部性では当事者が外部便益を考慮しないため、通常は過少供給になりやすい。」

ア：対応する記述：市場均衡では社会的最適より常に過剰供給になる

イ：対応する記述：社会的限界便益は私的限界便益より小さい

ウ：対応する記述：市場均衡では過少供給となり得るため、外部便益を反映した補助金が供給・利用を社会的最適へ近づけることがある

エ：対応する記述：正の外部性は市場の失敗とは無関係である

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。正の外部性では当事者が外部便益を考慮しないため、通常は過少供給になりやすい。

イ：この記述の評価理由は「外部便益が正ならSMB = PMB + 外部限界便益で、SMB > PMBとなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「補助金によって私的便益または供給インセンティブを社会的便益へ近づけるのが基本的な是正策である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「外部便益が市場取引に反映されないことは市場の失敗の一種である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「市場均衡では社会的最適より常に過剰供給になる」という記述に対応する。正の外部性では当事者が外部便益を考慮しないため、通常は過少供給になりやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0122 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：基礎

論点：純粋公共財の特徴として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「純粋公共財は、ある人の利用が他者の利用可能量を減らさず、対価を払わない人を排除しにくい。」

ア：対応する記述：競合性があり非排除性がある

イ：対応する記述：非競合性があり非排除性がある

ウ：対応する記述：非競合性があり排除性がある

エ：対応する記述：競合性があり排除性もある

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「これは共有資源に近い特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。純粋公共財は、ある人の利用が他者の利用可能量を減らさず、対価を払わない人を排除しにくい。

ウ：この記述の評価理由は「これは有料道路などクラブ財に近い特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「これは通常の私的財の特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「非競合性があり非排除性がある」という記述に対応する。純粋公共財は、ある人の利用が他者の利用可能量を減らさず、対価を払わない人を排除しにくい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0123 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：基礎

論点：公共財のフリーライダー問題の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「これはモラルハザードの説明である。」

- ア：対応する記述：対価を支払わなくても便益を受けられるため、各人が他者の負担にただ乗りしようとする
- イ：対応する記述：企業が価格差別を行うことで消費者余剰を獲得する現象
- ウ：対応する記述：情報を持つ側が契約後に危険な行動を取る現象
- エ：対応する記述：利用者が増えるほど必ず1人当たり利用可能性が減る現象

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「非排除性があると支払いを避けても便益を享受できるため、自発的負担が不足しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「これは価格差別の説明で公共財問題とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはモラルハザードの説明である。
 - エ：この記述の評価理由は「これは競合性の強い共有資源の混雑に近い説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「情報を持つ側が契約後に危険な行動を取る現象」という記述に対応する。これはモラルハザードの説明である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0124 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：海洋の漁業資源のように、利用者を排除しにくい一方、ある人の漁獲が他の人の利用可能な資源を減らす財の分類として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「純粋公共財は非競合的だが、漁業資源は漁獲によって残存量が減るため競合的である。」

- ア：対応する記述：完全な私的財
- イ：対応する記述：共有資源（コモン・リソース）
- ウ：対応する記述：自然独占財
- エ：対応する記述：純粋公共財

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「私的財なら通常は排除性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「非排除性と競合性を併せ持つ財は共有資源と呼ばれ、過剰利用が問題になりやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「自然独占は費用構造に関する市場構造の概念で、財の競合性・排除性の分類とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。純粋公共財は非競合的だが、漁業資源は漁獲によって残存量が減るため競合的である。
- 総合解説：提示された評価理由は「純粋公共財」という記述に対応する。純粋公共財は非競合的だが、漁業資源は漁獲によって残存量が減るため競合的である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0125 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：応用

論点：中古車市場で売り手は車の品質をよく知っているが、買い手は購入前に品質を十分識別できない。その結果、良質車の売り手が市場から退出し、低品質車の比率が高まる現象として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「契約前に品質やリスクタイプが私的情報であるため、取引されるタイプの構成が悪化する問題を逆選択という。」

- ア：対応する記述：逆選択
- イ：対応する記述：モラルハザード
- ウ：対応する記述：ネットワーク外部性
- エ：対応する記述：規模の経済

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。契約前に品質やリスクタイプが私的情報であるため、取引されるタイプの構成が悪化する問題を逆選択という。
イ：この記述の評価理由は「モラルハザードは主として契約後の行動が観察しにくいことから生じる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「ネットワーク外部性は利用者数が財の価値に影響する現象である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「規模の経済は生産規模と平均費用の関係であり、契約前情報の問題ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「逆選択」という記述に対応する。契約前に品質やリスクタイプが私的情報であるため、取引されるタイプの構成が悪化する問題を逆選択という。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0126 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：火災保険に加入した後、保険加入者が防火努力を減らしやすくなるが、その努力を保険会社が完全には観察できない。この問題として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「逆選択は契約前の隠されたタイプや品質が中心である。」

- ア：対応する記述：モラルハザード
- イ：対応する記述：逆選択
- ウ：対応する記述：公共財のフリーライダー
- エ：対応する記述：価格差別

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「契約後の行動が観察しにくいため、保険によって行動インセンティブが変化する典型的なモラルハザードである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。逆選択は契約前の隠されたタイプや品質が中心である。
ウ：この記述の評価理由は「公共財の非排除性から生じる問題ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「顧客群に異なる価格を設定する問題ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「逆選択」という記述に対応する。逆選択は契約前の隠されたタイプや品質が中心である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0127 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：基礎

論点：情報の非対称性への対応に関する説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「学歴、保証、品質認証など、情報を持つ側が自らのタイプを示す行動はシグナリングの例となる。」

- ア：対応する記述：保証制度は必ずモラルハザードだけを悪化させるため情報伝達機能を持たない
- イ：対応する記述：情報を持たない側が相手のタイプを識別する仕組みを作ることをシグナリングだけという
- ウ：対応する記述：情報を持つ側が自らのタイプを伝える行動をシグナリングという
- エ：対応する記述：スクリーニングは公共財の供給量を定める手法である

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「保証は条件によって高品質のシグナルとして機能し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「情報を持たない側が契約メニュー等でタイプを選別するのはスクリーニングと呼ばれる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。学歴、保証、品質認証など、情報を持つ側が自らのタイプを示す行動はシグナリングの例となる。
- エ：この記述の評価理由は「スクリーニングは情報非対称下で相手のタイプを識別する仕組みである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「情報を持つ側が自らのタイプを伝える行動をシグナリングという」という記述に対応する。学歴、保証、品質認証など、情報を持つ側が自らのタイプを示す行動はシグナリングの例となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0128 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：応用

論点：外部性に関するコースの定理の基本的な含意として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「理想条件下で効率的結果が初期配分に依存しない場合でも、所得分配は初期権利配分に影響され得る。」

- ア：対応する記述：取引費用が大きいほど当事者交渉は必ず効率的になる
- イ：対応する記述：権利が明確で取引費用が十分小さいなら、当事者間交渉により外部性の効率的な水準に到達し得る
- ウ：対応する記述：政府介入がある限り当事者交渉は絶対に不可能である
- エ：対応する記述：権利の初期配分は効率性にも所得分配にも一切影響しない

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「取引費用が大きいと交渉が困難になり、定理の前提から離れる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「権利が明確で交渉コストが小さいという条件下では、相互利益のある交渉で効率的配分に至り得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「制度環境によって交渉可能性は変わるが、政府の存在それ自体が交渉を排除するわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。理想条件下で効率的結果が初期配分に依存しない場合でも、所得分配は初期権利配分に影響され得る。

総合解説：提示された評価理由は「権利の初期配分は効率性にも所得分配にも一切影響しない」という記述に対応する。理想条件下で効率的結果が初期配分に依存しない場合でも、所得分配は初期権利配分に影響され得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0129 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：誰でも利用できる牧草地で、各牧畜業者が自分の家畜を1頭増やす便益は得る一方、その追加放牧が牧草地全体へ与える損失の大部分を他者にも負担させる。この結果として生じやすい現象はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「問題は利用不足ではなく、個々が外部費用を考慮せず過剰利用することである。」

- ア：対応する記述：公共財の過少利用
- イ：対応する記述：完全競争による必然的なバレート最適
- ウ：対応する記述：自然独占による価格低下
- エ：対応する記述：共有地の悲劇による過剰利用

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。問題は利用不足ではなく、個々が外部費用を考慮せず過剰利用することである。
イ：この記述の評価理由は「外部性があるため、競争的な個別判断だけでは効率的配分にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「費用逓減産業の自然独占とは別の問題である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「各利用者が追加利用の社会的費用を十分負担しないため、共有資源が過剰利用される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「公共財の過剰利用」という記述に対応する。問題は利用不足ではなく、個々が外部費用を考慮せず過剰利用することである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0130 市場の失敗・国際経済・所得分配＞外部性・公共財・情報の非対称性 | 難易度：標準

論点：保険契約に一定の自己負担額（免責）を設ける経済的理由として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「損失を完全補償すると予防努力が弱まる場合があるため、自己負担は契約後行動のインセンティブを残す手段となる。」

- ア：対応する記述：加入前の高リスク者を必ず全員排除するためだけに用いる
- イ：対応する記述：保険加入者に損失の一部を負担させ、事故予防や損失抑制のインセンティブを残すことでモラルハザードを抑える
- ウ：対応する記述：保険会社の固定費を必ずゼロにするために用いる
- エ：対応する記述：公共財の非排除性を解消するために用いる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「契約前のリスク選別にも契約設計は関係し得るが、免責の代表的機能はモラルハザード抑制である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。損失を完全補償すると予防努力が弱まる場合があるため、自己負担は契約後行動のインセンティブを残す手段となる。
ウ：この記述の評価理由は「固定費ゼロとは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「保険契約は公共財の非排除性問題ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「保険加入者に損失の一部を負担させ、事故予防や損失抑制のインセンティブを残すことでモラルハザードを抑える」という記述に対応する。損失を完全補償すると予防努力が弱まる場合があるため、自己負担は契約後行動のインセンティブを残す手段となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0131 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：基礎

論点：A国では労働1単位で小麦10単位または布5単位を生産でき、B国では労働1単位で小麦6単位または布6単位を生産できる。小麦の比較優位を持つ国として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「B国は布の機会費用が相対的に低く、布に比較優位を持つ。」

- ア：対応する記述：両国が同時に小麦の比較優位を持つ
- イ：対応する記述：両国とも比較優位を持たない
- ウ：対応する記述：B国
- エ：対応する記述：A国

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「2財2国モデルでは、相対機会費用が異なれば通常それぞれ別の財に比較優位を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「機会費用が異なるため比較優位は存在する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。B国は布の機会費用が相対的に低く、布に比較優位を持つ。
エ：この記述の評価理由は「A国で小麦1単位の機会費用は布0.5単位、B国では布1単位なので、小麦の機会費用が低いA国が比較優位を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「B国」という記述に対応する。B国は布の機会費用が相対的に低く、布に比較優位を持つ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0132 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：基礎

論点：比較優位の原理に関する説明として最も適切なものはどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「これがリカード型比較優位の中心的含意である。」

- ア：対応する記述：絶対優位と比較優位は常に同じ国に一致する
- イ：対応する記述：比較優位は労働生産性の絶対水準だけで決まる
- ウ：対応する記述：ある国がすべての財で絶対劣位なら、貿易から利益を得ることはできない
- エ：対応する記述：ある国がすべての財で絶対劣位でも、機会費用が相対的に低い財へ特化することで貿易利益を得る余地がある

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「一国が両財で絶対優位でも、比較優位は一方の財にしかない場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「絶対水準ではなく財間の相対生産性が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「比較優位は相対的な機会費用で決まり、絶対劣位でも貿易利益があり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これがリカード型比較優位の中心的含意である。
総合解説：提示された評価理由は「ある国がすべての財で絶対劣位でも、機会費用が相対的に低い財へ特化することで貿易利益を得る余地がある」という記述に対応する。これがリカード型比較優位の中心的含意である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0133 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：標準

論点：比較優位に基づく自由貿易の利益について最も適切な記述はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「比較優位に基づく交換では双方が利益を得る余地がある。」

- ア：対応する記述：貿易利益は輸出国にだけ生じ、輸入国には生じない
- イ：対応する記述：貿易利益が生じるには両国の生産技術が完全に同じである必要がある
- ウ：対応する記述：貿易開始後は各国が必ずすべての財を国内生産しなければならない
- エ：対応する記述：交易条件が両国の機会費用の間にあれば、特化と交換によって両国が自給自足時より多く消費できる可能性がある

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。比較優位に基づく交換では双方が利益を得る余地がある。
イ：この記述の評価理由は「技術差は比較優位を生む一因であり、同一である必要はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「完全特化か不完全特化かはモデルや条件によるが、すべてを国内生産する必要はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「双方の国内機会費用の間の交換比率なら、両国に自給自足より有利な交換余地が生じる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「貿易利益は輸出国にだけ生じ、輸入国には生じない」という記述に対応する。比較優位に基づく交換では双方が利益を得る余地がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0134 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：標準

論点：A国ではワイン1本の機会費用がチーズ2個、B国ではワイン1本の機会費用がチーズ5個である。ワイン1本と交換するチーズの個数として、両国に貿易利益が生じ得る交易条件はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「A国はワイン1本を国内で作るのにチーズ2個を犠牲にするため、1個との交換ではA国に輸出利益がない。」

- ア：対応する記述：チーズ2個未満であればどの値でもよい
- イ：対応する記述：チーズ1個
- ウ：対応する記述：チーズ3個
- エ：対応する記述：チーズ6個

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「2個未満ではワイン輸出側A国が国内機会費用を回収できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。A国はワイン1本を国内で作るのにチーズ2個を犠牲にするため、1個との交換ではA国に輸出利益がない。
ウ：この記述の評価理由は「2個と5個の間である3個なら、A国にもB国にも自給自足より有利な交換余地がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「B国はワイン1本の国内機会費用がチーズ5個なので、6個支払う交換はB国に不利である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「チーズ1個」という記述に対応する。A国はワイン1本を国内で作るのにチーズ2個を犠牲にするため、1個との交換ではA国に輸出利益がない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0135 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：標準

論点：世界価格に影響を与えない小国が輸入財に従量関税を課す場合の典型的な短期効果として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「小国では国内価格は概ね世界価格＋関税へ上昇し、国内供給増・需要減・輸入減が起こり、消費者から生産者・政府への移転と死荷重が生じる。」

- ア：対応する記述：国内価格は必ず低下し、輸入量は増加する
- イ：対応する記述：消費者余剰と生産者余剰がともに必ず増加する
- ウ：対応する記述：国内価格が上昇し、国内生産者余剰と政府関税収入は増え得る一方、消費者余剰は減少する
- エ：対応する記述：政府収入は必ずゼロで、国内生産も減少する

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「関税は輸入財の国内価格を引き上げ、輸入量を減らす方向に働く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「消費者余剰は価格上昇により減少する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。小国では国内価格は概ね世界価格＋関税へ上昇し、国内供給増・需要減・輸入減が起こり、消費者から生産者・政府への移転と死荷重が生じる。
- エ：この記述の評価理由は「輸入が残る限り政府は関税収入を得る。国内生産者は価格上昇で供給を増やす方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「国内価格が上昇し、国内生産者余剰と政府関税収入は増え得る一方、消費者余剰は減少する」という記述に対応する。小国では国内価格は概ね世界価格＋関税へ上昇し、国内供給増・需要減・輸入減が起こり、消費者から生産者・政府への移転と死荷重が生じる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0136 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：応用

論点：小国で、ある輸入割当が競争的な輸入関税と同じ国内価格・輸入量をもたらしているとする。関税と輸入割当の違いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「拘束的な輸入割当は国内価格を世界価格より高くし得る。」

- ア：対応する記述：輸入割当は輸入量を制限できない
- イ：対応する記述：輸入割当では数量制限から割当レントが生じ、その帰属先によって国内厚生が関税の場合と異なり得る
- ウ：対応する記述：関税には政府収入が生じる可能性はない
- エ：対応する記述：輸入割当では国内価格は世界価格を下回る必要がある

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「輸入割当はまさに数量を直接制限する政策手段である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「割当による希少な輸入権にはレントが生じ、政府が競売するか国内業者・外国業者に帰属するかで所得移転が変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「関税は輸入がある限り政府収入を生じる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。拘束的な輸入割当は国内価格を世界価格より高くし得る。

総合解説：提示された評価理由は「輸入割当では国内価格は世界価格を下回る必要がある」という記述に対応する。拘束的な輸入割当は国内価格を世界価格より高くし得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0137 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：標準

論点：小国が輸出財1単位当たりの補助金を導入した場合の標準的な部分均衡分析として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「生産者が輸出を増やす誘因を持ち、国内価格上昇により生産増・国内消費減が生じる。」

- ア：対応する記述：国内価格が上昇し、国内生産が増え、国内消費が減る方向に働く
- イ：対応する記述：世界価格が必ず補助金額だけ上昇する
- ウ：対応する記述：政府支出は生じない
- エ：対応する記述：国内価格が低下し、国内消費が増え、国内生産が減る

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。生産者が輸出を増やす誘因を持ち、国内価格上昇により生産増・国内消費減が生じる。
イ：この記述の評価理由は「小国は世界価格に影響を与えないという前提で分析する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「補助金は輸出量に応じた政府支出を伴う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「輸出補助金は輸出市場で得られる実効価格を高めるため国内価格も上昇する方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「国内価格が上昇し、国内生産が増え、国内消費が減る方向に働く」という記述に対応する。生産者が輸出を増やす誘因を持ち、国内価格上昇により生産増・国内消費減が生じる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0138 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：応用

論点：小国が輸入関税を課した結果、消費者余剰が120減少、生産者余剰が40増加、政府関税収入が50増加した。他の効果を無視すると国全体の純厚生変化はいくらか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「生産者余剰と政府収入の増加90を考慮していない。」

- ア：対応する記述：30減少
- イ：対応する記述：80減少
- ウ：対応する記述：30増加
- エ：対応する記述：170減少

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「 $-120 + 40 + 50 = -30$ で、30の厚生損失となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。生産者余剰と政府収入の増加90を考慮していない。
ウ：この記述の評価理由は「純厚生は $-120 + 40 + 50 = -30$ なので増加ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「消費者余剰減少と政府収入を単純加算した値ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「80減少」という記述に対応する。生産者余剰と政府収入の増加90を考慮していない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0139 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：標準

論点：ヘクシャー＝オリーン型の貿易理論の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「絶対優位・劣位そのものが輸出財を決めるわけではない。」

- ア：対応する記述：貿易パターンは貨幣供給量だけで決まる
- イ：対応する記述：各国は相対的に豊富な生産要素を集約的に用いる財を輸出する傾向がある
- ウ：対応する記述：各国は必ず絶対劣位の財だけを輸出する
- エ：対応する記述：生産要素賦存の違いは貿易と無関係である

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「貨幣供給は短期のマクロ変数であり、HOモデルの貿易パターンの中心ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「相対的に豊富な要素の相対価格が低くなりやすく、その要素を集約的に用いる財に比較優位が生じるという考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。絶対優位・劣位そのものが輸出財を決めるわけではない。
エ：この記述の評価理由は「要素賦存の差こそHO理論の主要な説明要因である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「各国は必ず絶対劣位の財だけを輸出する」という記述に対応する。絶対優位・劣位そのものが輸出財を決めるわけではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0140 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 国際貿易・通商政策 | 難易度：基礎

論点：先進国同士で自動車を互いに輸出入するような産業内貿易を説明する要因として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「独占的競争と規模の経済を用いる新貿易理論では、似た国同士の双方向貿易と品種多様性を説明できる。」

- ア：対応する記述：比較優位が存在すると産業内貿易は理論上絶対に起こらない
- イ：対応する記述：産業内貿易は必ず輸入割当がある場合だけ生じる
- ウ：対応する記述：同一産業内の貿易では消費者が品種多様性から利益を得ることはない
- エ：対応する記述：規模の経済と製品差別化により、似た要素賦存の国同士でも異なる品種を相互に輸出入することがある

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「比較優位に基づく産業間貿易と産業内貿易は併存し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「数量制限は産業内貿易の必要条件ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「産業内貿易は利用可能な品種を増やし、消費者利益を生むことがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。独占的競争と規模の経済を用いる新貿易理論では、似た国同士の双方向貿易と品種多様性を説明できる。
総合解説：提示された評価理由は「規模の経済と製品差別化により、似た要素賦存の国同士でも異なる品種を相互に輸出入することがある」という記述に対応する。独占的競争と規模の経済を用いる新貿易理論では、似た国同士の双方向貿易と品種多様性を説明できる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0141 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：基礎

論点：所得分配を表すローレンツ曲線について最も適切な記述はどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは所得分配曲線の定義ではない。」

- ア：対応する記述：横軸に所得税率、縦軸に失業率をとる曲線である
- イ：対応する記述：ローレンツ曲線は平均所得の水準だけを示し、分配とは無関係である
- ウ：対応する記述：完全不等ほど45度線に近づく
- エ：対応する記述：横軸に人口の累積比率、縦軸に所得の累積比率をとり、完全平等なら45度線に一致する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは所得分配曲線の定義ではない。
イ：この記述の評価理由は「平均所得が同じでも分配が異なればローレンツ曲線は異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「不平等が大きいほど曲線は45度線から下方へ離れる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「所得の少ない順に並べた人口の累積比率と所得累積比率を結び、完全平等では両者が一致する45度線となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「横軸に所得税率、縦軸に失業率をとる曲線である」という記述に対応する。これは所得分配曲線の定義ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0142 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：標準

論点：ジニ係数に関する記述として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「OECD等でも0から1の範囲で、値が大きいほど所得分配が不平等とされる。」

- ア：対応する記述：0に近いほど所得分配は不平等である
- イ：対応する記述：一般に0は完全平等、1は完全不平等を表し、値が大きいほど不平等度が高い
- ウ：対応する記述：1に近いほど完全平等に近い
- エ：対応する記述：平均所得が上昇すればジニ係数は必ず上昇する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「0は完全平等を表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。OECD等でも0から1の範囲で、値が大きいほど所得分配が不平等とされる。
ウ：この記述の評価理由は「1は完全不平等の極限を表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「全員の所得が同じ比率で増えるなら分配比率は変わらず、ジニ係数も不変となり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「一般に0は完全平等、1は完全不平等を表し、値が大きいほど不平等度が高い」という記述に対応する。OECD等でも0から1の範囲で、値が大きいほど所得分配が不平等とされる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0143 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：基礎

論点：パレート改善の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「政策の種類ではなく各人の厚生変化によって判定する。」

- ア：対応する記述：所得総額が増えれば誰かが大きく損をしても必ずパレート改善となる
- イ：対応する記述：社会全体の所得を必ず完全平等にする変化
- ウ：対応する記述：政府支出を増やす変化はすべてパレート改善である
- エ：対応する記述：少なくとも1人の厚生を高め、他の誰の厚生も低下させない変化

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「誰かの厚生が低下するなら、そのままではパレート改善ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「分配の平等化はパレート改善の必要条件ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。政策の種類ではなく各人の厚生変化によって判定する。
 - エ：この記述の評価理由は「誰も悪化せず少なくとも1人が改善する変化がパレート改善である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「政府支出を増やす変化はすべてパレート改善である」という記述に対応する。政策の種類ではなく各人の厚生変化によって判定する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0144 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：標準

論点：単純な功利主義的社会厚生関数の考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは富裕者のみを重視する基準で、功利主義の一般的定義ではない。」

- ア：対応する記述：最も効用の低い人だけを必ず唯一の評価対象とする
- イ：対応する記述：所得分配を評価せず、生産量だけを機械的に最大化する
- ウ：対応する記述：個人の効用を何らかの形で合計し、その総和を社会厚生として評価する
- エ：対応する記述：最も所得の高い人の効用だけを最大化する

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「最も恵まれない人を重視するのはマキシミン型の考え方に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「功利主義は個人効用を通じて配分も評価し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「功利主義では個々人の効用を足し合わせた総効用を社会厚生 of 基準とする代表的定式化がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは富裕者のみを重視する基準で、功利主義の一般的定義ではない。
- 総合解説：提示された評価理由は「最も所得の高い人の効用だけを最大化する」という記述に対応する。これは富裕者のみを重視する基準で、功利主義の一般的定義ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0145 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：標準

論点：社会厚生を「最も厚生水準の低い人の効用」で評価し、その最低水準をできるだけ高くする考え方として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「最も不利な人の厚生を最大化する評価はマキシミン基準と呼ばれる。」

- ア：対応する記述：マキシミン（Rawls型）基準
- イ：対応する記述：限界生産力説
- ウ：対応する記述：功利主義の単純総和基準
- エ：対応する記述：比較優位原理

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。最も不利な人の厚生を最大化する評価はマキシミン基準と呼ばれる。
イ：この記述の評価理由は「限界生産力説は要素所得分配を生産性で説明する理論である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「単純功利主義は効用総和を重視するため、最低効用だけを基準としない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「比較優位は国際分業の原理である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「マキシミン（Rawls型）基準」という記述に対応する。最も不利な人の厚生を最大化する評価はマキシミン基準と呼ばれる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0146 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：応用

論点：高所得者への限界税率を引き上げ、その税収を低所得者へ移転する政策を考える。公平性と効率性の関係について最も適切な記述はどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「税・移転は設計次第で可処分所得格差を縮小し得る。」

- ア：対応する記述：効率性が少しでも低下する可能性があれば再分配政策は必ず社会厚生を低下させる
- イ：対応する記述：再分配は所得格差を必ず拡大するため公平性を改善しない
- ウ：対応する記述：再分配により公平性が改善する一方、行動インセンティブの変化や課税の超過負担によって効率性コストが生じる可能性がある
- エ：対応する記述：税率を上げても労働供給や投資行動は理論上絶対に変化しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「社会厚生評価は公平性への価値判断と効率性コストの双方を考慮するため、一義的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。税・移転は設計次第で可処分所得格差を縮小し得る。
ウ：この記述の評価理由は「再分配政策では分配改善の便益と歪みによる効率性損失を比較する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「限界税率は労働・貯蓄・投資などのインセンティブに影響し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「再分配は所得格差を必ず拡大するため公平性を改善しない」という記述に対応する。税・移転は設計次第で可処分所得格差を縮小し得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0147 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：基礎

論点：課税による「死荷重（超過負担）」の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「税によって相互に利益のある取引が減るなどして、消費者・生産者の損失のうち税収で相殺されない部分が死荷重となる。」

- ア：対応する記述：税収として政府に移転した金額そのものだけを指す
- イ：対応する記述：所得格差が完全になくなることを指す
- ウ：対応する記述：税が取引や行動を歪めることで失われる、政府税収にも誰かの余剰にもならない総余剰の減少を指す
- エ：対応する記述：納税者が支払った税額と政府税収は必ず異なるため生じる会計上の誤差を指す

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「税収は民間から政府への移転であり、それ自体は社会全体から消滅する余剰ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「所得分配の平等化とは別概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。税によって相互に利益のある取引が減るなどして、消費者・生産者の損失のうち税収で相殺されない部分が死荷重となる。
エ：この記述の評価理由は「死荷重は会計誤差ではなく資源配分の歪みによる厚生損失である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「税が取引や行動を歪めることで失われる、政府税収にも誰かの余剰にもならない総余剰の減少を指す」という記述に対応する。税によって相互に利益のある取引が減るなどして、消費者・生産者の損失のうち税収で相殺されない部分が死荷重となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0148 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：応用

論点：ある政策でAの便益が100増え、Bの損失が60増えとする。実際の補償は行われていない。カルドア＝ヒックスの補償原理に基づく説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「補償原理はこの単純化では便益と損失の比較を行い、所得水準の同一性を必要条件とはしない。」

- ア：対応する記述：実際の補償がないため必ずパレート改善である
- イ：対応する記述：誰かが損をする以上、どのような意味でも改善と評価できない
- ウ：対応する記述：便益を得る側が損失を被る側を潜在的に補償してもなお余力があるため、潜在的な効率改善と評価し得る
- エ：対応する記述：AとBの所得水準が同じでなければ評価不能である

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「Bが実際に損をしているのでパレート改善ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「これはパレート基準なら改善ではないが、補償原理は潜在的補償可能性を見る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「100の便益から60を補償しても40残るため、金銭尺度での潜在的補償が可能である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。補償原理はこの単純化では便益と損失の比較を行い、所得水準の同一性を必要条件とはしない。
総合解説：提示された評価理由は「AとBの所得水準が同じでなければ評価不能である」という記述に対応する。補償原理はこの単純化では便益と損失の比較を行い、所得水準の同一性を必要条件とはしない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0149 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：標準

論点：厚生経済学の第一基本定理について最も適切な記述はどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「市場の失敗が存在すると第一基本定理の前提が崩れ、効率性が保証されない。」

- ア：対応する記述：外部性や情報の非対称性が大きいほど競争均衡は必ずパレート効率的になる
- イ：対応する記述：完全競争、完全情報、外部性がない等の適切な条件のもとで、競争均衡はパレート効率的となる
- ウ：対応する記述：独占市場の均衡だけを対象とする定理である
- エ：対応する記述：競争均衡は所得分配の公平性も必ず保証する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。市場の失敗が存在すると第一基本定理の前提が崩れ、効率性が保証されない。
イ：この記述の評価理由は「価格受容の市場と適切な完全性条件のもとで、競争均衡の効率性を示す定理である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「定理は競争市場についての効率性結果である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「パレート効率性は分配の公平性を保証しない。非常に不平等な配分でも効率的な場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「外部性や情報の非対称性が大きいほど競争均衡は必ずパレート効率的になる」という記述に対応する。市場の失敗が存在すると第一基本定理の前提が崩れ、効率性が保証されない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0150 市場の失敗・国際経済・所得分配 > 所得分配・社会的厚生 | 難易度：標準

論点：厚生経済学の第二基本定理の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「一括的な初期保有再分配を行った後、市場メカニズムで望ましい効率配分を実現できるという理論的含意である。」

- ア：対応する記述：政府が価格をすべて直接決めなければパレート効率的配分は実現できない
- イ：対応する記述：適切な凸性などの条件のもとでは、望ましいパレート効率的配分を初期保有の再分配と競争市場の組合せで実現できるという分離の考え方を示す
- ウ：対応する記述：どのような所得分配も市場取引だけで自動的に公平になる
- エ：対応する記述：市場の失敗があるほど政府は初期保有を調整してはならない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「価格の全面統制を必要条件とする定理ではなく、競争市場を利用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。一括的な初期保有再分配を行った後、市場メカニズムで望ましい効率配分を実現できるという理論的含意である。
ウ：この記述の評価理由は「市場均衡の効率性と分配の公平性は別問題であり、自動的公平化は保証されない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「第二基本定理は、分配目標と市場による効率的配分を理論上分けて考えられる可能性を示す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「適切な凸性などの条件のもとでは、望ましいパレート効率的配分を初期保有の再分配と競争市場の組合せで実現できるという分離の考え方を示す」という記述に対応する。一括的な初期保有再分配を行った後、市場メカニズムで望ましい効率配分を実現できるという理論的含意である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03